

性と人権の侵略

従軍慰安婦問題が 突きつけるもの

●戦争と性

北沢杏子

●慰安婦問題を考える

性の性差別から見た

「軍隊慰安婦問題」朴 和美

●元従軍慰安婦の証言

「追悼の旅」を迎えて 沖繩（渡嘉敷島）

●冤罪と従軍慰安婦

高里鈴代

●今、なぜ従軍慰安婦問題が

前林則子

●補償と謝罪を求める裁判に支援を

高橋喜久江

●戦後補償と軍隊慰安婦問題

林 和男

●資料

慰安所規則／利用時間表／利用価格表／慰安券ほか

福島瑞穂

174号



今月の編集はくあこら 新宿

謝罪は経済的補償だけでは終わらない

従軍慰安婦問題に関わって三十年余、資料の発掘は遅々として進まなかった。ここに来て一次資料が続々と発見され、地下に眠っていた問題ににわかに光が射し始めた。韓国や日本在住の韓国、朝鮮の女性たちや日本の研究者の長年にわたる努力が実を結んだこと、今なお差別と窮乏の底にある当事者が高齢化、生きていくうちに証言を、の気持ちを持続したためだが、日本が戦後処理をしないまま、PKO、PKFと称する自衛隊の派兵が浮上したことを深く憤って重い口をようやく開いたとも伝えられる。

この問題を、女性の人権無視・植民地支配・戦後処理の欠如という歴史的縦軸と、今なお続く女性差別・他民族差別・家父長制の社会的横軸からとらえ、日韓それぞれの座標軸の微妙なズレを認識して、日韓の女性分裂するのではなく、より深い共闘を、と提唱した朴和美氏の主張（本誌四ページに掲載）は、いま私たちが最も心すべきことだろう。

人間の生きる根源としての性の問題、支配の構造、内なる差別意識、どれも、これから何代もかかって考え続けなければならない大問題である。元“慰安婦”にできる限り速やかに、できるかぎり多くの経済的補償と教科書への記載を含めた謝罪が行われなければならないのは言うまでもないが、日本社会の内側に今も根を張る根源的な問題に迫り、改める努力が今こそ必要だろう。補償が終われば謝罪が終わる問題では決してない。根深い差別の根を絶つための方法を、それぞれの自分に問い、行動を持続したい。この号は、それを考える端緒として、とり急ぎ編集した。当事者の裂帛の叫びに涙するその涙が、さらに大きな思念と行動の波となることを祈っている。

目次

● 謝罪は経済的補償だけでは終わらない	斎藤千代
● 戦争と性	北沢杏子 2
● 性の性差別から見た「軍隊慰安婦問題」	朴 和美 4
● 慰安婦問題を考える	——「追悼の旅」を迎えて—— 高里鈴代 10
● 元従軍慰安婦の証言	16
● 冤罪と従軍慰安婦	前林則子 27
● 今、なぜ、従軍慰安婦問題が	高橋喜久江さんに聞く 31
● 証言集に全国から大反響	39
● 訪れて気がついた	——私にもあった蔑視感 遠藤むら子 43
● 補償と謝罪を求める裁判に支援を	——弁護士団の一人として 福島瑞穂 47
● 戦後補償と軍隊慰安婦問題	林和男弁護士に聞く 53
● 国国会議録に見る「従軍慰安婦」	62
● 資料（慰安所規則／利用時間表／利用価格表／慰安券ほか）	77
● めじゃーなりすとのめ	岐路の前 仙波朋子 94
● あごら読書室	96
● 北から南から	98
● イラクにミルクを	100
● あごらのあごら	102
● 編集後記	104

戦争と性

北沢杏子

『アジア女性会議』は、去る四月二日から四日まで、嵐山の国立婦人教育会館で開かれ、アジア各地から駆けつけた十八人の女性をゲストに迎えて、性支配、性暴力、買売春、エイズ、教育（識字）問題他が、延べ千数百人の参加者によって熱っぽく討議された。

二日目は十二分科会に別れたが、その中の一つ『戦争と性』分科会は、私とヘウリヨソンネットワークの朴和美（パク・ファミ）さんの二人をモデレーターに、朝九時から午後五時までぶっ通しで行われ、実り多い一日となった。

参加者のひとりがおずおずと、「あなた方を朝鮮人とお呼びしてもいいのですか」と聞き、「ええ、いいんですよ」と朴さんが答えるところから話しあいが始まったのが、私には印象深かった。こうした遠慮やわだかまりがあつては連帯はできない。「従軍慰安婦」問題にかかわる私たちは常に加害国の女であり、在日韓国・朝鮮人の女性たちは常に被害国の女—という構図があつて、これが大きな障害となつてきた。

私が代表を務める〈性を語る会〉主催のシンポジウム『国家という名の暴力—従軍慰安婦』は、一九九〇年の夏、まだこの問題がこれほど浮上してこない頃に開かれたが、シンポジストの一人で映画監督の朴寿南（パク・スナム）さんは、日本軍隊がつけたこの呼称、従軍にも慰安婦にも怒りを覚えると発言。カッコつきで話すことを提案したのだった。ついで九一年夏、同会は『戦争と性—従軍慰安婦Part II』を開いた。席上、パネリストの一人でノンフィクション作家の林郁さんは、シベリア出兵（一九一八年）に伴う日本人女性の慰安婦問題（従軍慰安婦前史）について語った。このとき現地に置き去りにされた慰安婦たちは、ロシア人や中国人の女中や妾になつて生きのびたという。これを「第一次残留婦人」と、林郁さんは呼んだ。

なぜ、この話を持ち出したかという点、前述の分科会「戦争と性」に深くかわる問題として、「中国残留婦人」問題が提出されたからだ。

中国残留婦人について涙ながらに語ったのは、遠く山口県からきた山根百世さん（中国残留婦人交流の会理事）。戦前、植民地政策の一環として旧満州（現、中国東北部）開拓団に入植した日本人たちは、敗戦と同時に南へ南へと逃げまどった末、収容所に入れられる。

夜な夜なソ連兵に「女を提供せよ」と迫られると、若い娘たちがムラ（日本人集団）を救うために差し出され、翌朝ズタズタにされて戻ってくるのだった。ソ連兵の慰安婦として。

女たちはいつも、女という性をもっているが故に性支配のもとにさらされてきた。「朝鮮人従軍慰安婦」も「中国残留婦人」も……。当時の十三歳以上が残留婦人、以下が残留孤児と呼ばれることも、その日初めて知った。つまり、月経のある年齢以上が婦人で、男の性の対象物にされたのだ。

もちろん、「朝鮮人従軍慰安婦」問題と、「中国残留婦人」問題はちがう。よく男たちがいうように、「従軍慰安婦もモノだったように、一兵卒も主体性を奪われたモノだったのだ」などと馴れあう気持ちはさらさらない。しかし、「戦争と性」の問題として提出されたからには、フェミニズムの視点から双方を結ぶ糸口を見出したい、と私は思った。

朴さんが参加者に問いかけ、私が黒板に書き並べていった。そして、朝鮮人「従軍慰安婦」問題は「植民地支配→性支配」であり、「中国残留婦人」問題は「植民地政策→性支配」である構図が浮かび上がってきた。その上に家父長制（天皇制）があること、そして共闘のキーワードは厳然として「性支配」であることが「見えてきた」のだった。

性の性差別から見た「軍隊慰安婦問題」

朴 和美

「軍隊慰安婦問題」が、一九九〇年代に入ってにわかに脚光を浴びるようになった。韓国の女性たちが、第一声を上げたのだ。そして、この問題を大きな運動のうねりにした一人に尹貞玉先生（ユン・ジョンオク・韓国挺身隊問題対策協議会共同代表）がいる。尹先生との出会いをきっかけに、この問題に取り組むようになった日本在住の韓国・朝鮮人（以下「在日」）女性が多い。かくいう私もその一人だ。

そうした女たちが集まって、昨年の十一月に〈従軍慰安婦問題ウリヨソンネットワーク〉なるグループを旗揚げした。これまでの「在日」の既存の組織とは違った女のつながりを模索しながら、この問題を自分自身の問題としてとらえ試行錯誤しながら活動を続けている。グループの名前自体が、その実態を表していると思う。「ウリヨソン」とは朝鮮語で「私たち同胞女性」を意味している。また、漢字と朝鮮語と英語のコンビネーションの中に、「在日」の政治的立場の違いを乗り越えたいという思いを込めている。そして、「ネットワーク」という新しい言葉を使うことで、新しいタイプの横のつながりを創り出したいという私たちの意思を表明しているのだ。

その尹先生が私たち「在日」の女に向かって話した中で特に私が示唆的だと感じたのは、「縦軸を歴史と考へ、横軸を社会と考へる。その交わった点が自分の現在地だ」という言葉だった。こうした座標軸を使った比喻自体はそれほど目新しいものではない。だが、先生の話から私自身が受け取ったメッセージは大きかった。

たとえば、「在日」の女たちは、日本帝国主義による朝鮮植民地支配、強制連行、さらに言うなら日本の戦後処理の欠如という縦軸、そして現在も続く日本社会の朝鮮人への差別と「在日」社会の性差別という横軸、その交わる所で生きている。日本の女たちとはいえば、アジア・太平洋戦争における「銃後の女」としての役割、そしてその戦争責任の清算のないままの敗戦後の日米安保体制下の高度経済成長という歴史の縦軸を、また排他的気質ゆえに「よそ者」（外人）を差別し、自らは女として差別される日本社会の一員としての横軸を、個々人の思惑とはかわりなく担わされている。さらに、韓国の女たちは、植民地支配と一九四五年の朝鮮半島解放後の朝鮮戦争、それに続く祖国分断という縦軸と、男尊女卑を旨とする儒教的家父長制の影響を未だ色濃く伝える韓国社会という横軸、その接点を現在地としながら生きている。

この少しずつ微妙にズレた座標軸の位置を認識することが、「軍隊慰安婦問題」の複雑さにからめとられないためには、どうしても必要な視点に思える。こうしたズレをきちんと押さえないがら、この「軍隊慰安婦問題」の中に潜む、女という性を持つ者に共通の問題を探ってゆくことが大事だと私は思う。

複雑な顔を持つこの問題を貫く大きなテーマとして、鈴木裕子さんは①日本帝国主義の朝鮮半島植民地支配に対する責任 ②天皇制ないし天皇の軍隊の問題 ③女性の人權の問題を指摘している。前者の二つのテーマは、これまでも日本の、そして「在日」の男たちの手によって、活字化されたり映像化されている。ところが、三番目の女の人權、あるいは女の置かれた社会状況を踏まえた上で、この問題を語るということはほとんどされてこなかったように思える。こうした状況のゆえに、あるいは女の人權の蹂躪という認識があるがゆえに、実は今また新たに「軍隊慰安婦問題」が浮上してきたのだといえる。

「なぜ今、軍隊慰安婦問題なのか」という問いかけがある。これに対して、「なぜ半世紀もの長きにわたって、これほどの人權の蹂躪が問題にされてこなかったのか」と、逆に問い返すことが重要なのだ。本当になぜ元朝鮮人慰安婦の人たちは、貝のように堅く口を閉ざして生きなくてはならなかったのか。半世紀にわたる彼女たちの「沈黙」の意味を読み解くことが、複雑なこの問題の全体像をつかむことにつながってゆくはずだ。

では、もう少し丁寧に女の人權の側面からこの問題を見てゆこう。韓国の女たちが、「軍隊慰安婦問題」を一つの運動にしたのだということは強調しておきたい。その背景として、韓国女性運動の中でこれを問題にしうる運動主体が生まれたこと、そして性に対する意識の変化をあげる

ことができる。韓国の代表的な女性団体である〈韓国女性団体連合〉などの三十六女性団体（後に〈韓国挺身隊問題対策協議会〉を結成）が、日本政府に対し六項目の要求を出したのだ。だが、彼女たちの告発の矢は、日本政府だけに向けられているのではないということを見逃してはならない。韓国国内に未だに色濃く残る儒教的家父長制が一方的に女だけに強いる理不尽な性道德に對しても、鋭い矢が放たれているのだ。

こうした韓国の女たちは、意識するしないにかかわらず、フェミニズム（女性解放思想）というフィルターを通して、この問題を問い直している側面があるように思える。男女平等思想という土台の上に立つフェミニズムは、男と同じように女にも自由に生きる権利があり、自己主張してもいいのだと教えてくれる。この観点からみればこそ、元朝鮮人慰安婦たちの半世紀にもわたる強いられた「沈黙」への、異議申し立てが説得力を持つのだ。つまり、女たちが「軍隊慰安婦問題」と関わるということは、まさに女が過去においてどのように生きてきたのか、現在どのようにに生きているのか、そしてこれからどのように生きてゆこうとしているのかを、自分自身で検証し納得のゆく答えを捜し出すのだという意思表示の一つにほかならないのだ。

この問題に関わる時にまず必要なのが、実は尹先生の指摘したあの座標軸なのだと思う。確かに女総体として、朝鮮半島の女たちも日本の女たちも十五年戦争の間、制度的にあるいは目に見えない形で存在する性差別的状況の下で生きてきたという現実がある。とはいいながら、被植民地の女と侵略した側の日本の女の置かれた状況には、雲泥の差があったはずだ。そこを細かく見

てゆくことが、どうしても必要な作業なのだ。たとえば、日本の女たちは、天皇の軍隊の兵士である自分の夫・父・息子が植民地の女たちを買春・強姦・輪姦・虐殺していたことを知っていたのだろうか。「慰安婦」という存在を知っていただろうか。翻って被植民地の朝鮮半島の女たちはどうであつたろうか。「挺身隊」の名の下に狩り出された娘たちを、姉妹たちを、解放後暖かく迎えただろうか。そして、「在日」の女たちは、今も日本で生き続けている元朝鮮人慰安婦たちのことを一体どのくらい知っているだろうか。それぞれの女たちが、それぞれの立場で、己の歴史に真摯に向かい合うことでしか答えは出てこないだろう。

次にこうして歴史に向かう時に、注意しておきたいことがある。旧日本帝国主義による朝鮮植民地支配の犠牲者として、天皇の軍隊の性の奴隷とされた多くの朝鮮の女たちがいる。日本という国家の彼女たちへの性的蹂躪は許しがたい。だが、朝鮮半島解放後も生きる自由を回復できずに、悲惨な生を余儀なくされた元朝鮮人慰安婦たちの現実も忘れるわけにはゆかないのだ。彼女たちを苦しめ続けているのは、日本という国家権力の後遺症だけでなく、韓国社会に根強く残る儒教的家父長制の押し付ける性道徳、つまり貞操観念の強要でもあるのだ。この民族差別（植民地支配）と性差別（性支配）という二つの要因を同じ重さで扱うことによって始めて、元朝鮮人慰安婦たちの壮絶な生きざまの本質がわかってくるのではないだろうか。

この性の場面における性差別を理解することは、日本の朝鮮植民地支配を正しく理解することに負けず劣らず難しいのだ。その理解のためには、たとえば「男の性欲は押さえられない」「女

は子どもを産んで一人前」「女はやさしく」「男はつよく」といった、性・ジェンダーにまつわる社会通念・イデオロギー・神話の問い直しも不可欠になってくるのだ。実はこうした考え方が、女に性の自己決定権を与えずに、性の二重規範を支えてしまうのだ。女には禁じている性の自由を男には許しているのが、性の二重規範という不文律だ。そして、この性の二重規範をいったん認めてしまうと、必然的に「売春必要悪論」や「慰安婦制度必要悪論」にからめとられてしまう仕組みがあるようだ。また、この性の二重規範を維持する装置として「女の二分化」が持ち込まれ、女を「ふつうの女」と「商売女」という二種類に分類し、お互いが反目し合うように仕向けられてしまうのだ。

したがって、今この「軍隊慰安婦問題」の中に潜む女の性の問題を把握するためには、女の二分化のワナにはまり込み「ふつうの女」になることではなく、必然的に女をこのように分断してしまう性の二重規範という性差別そのものに目を向けることが重要だ。つまり韓国の、「在日」の、日本の女たちがそれぞれの縦軸・横軸を認識しながら、性の側面での性差別に注意を向けることが必要なのだ。

●「従軍慰安婦」という呼び方を見直す声が出始めた。私自身もいわゆる「従軍慰安婦」という言葉に納得がゆかないので、それに代わるものとして「軍隊慰安婦」を使った。ただ引用の部分に関してはそのまま使用した。

慰安婦問題を考える

——「追悼の旅」を迎えて——

沖縄——渡嘉敷島

高里鈴代

四十七年前、日本で唯一の地上戦場となった沖縄は、三月に米軍が沖縄に上陸してからの三か月というもの、人びとはまさに地獄の苦しみを体験した。その沖縄に、日本国土の国境線を防衛するため約六万の日本兵（天皇の皇軍）が投入され、駐屯するそれら軍隊のために慰安所が各地に設置されていた。朝鮮半島から連れてきた朝鮮女性と、沖縄で徴用された沖縄の女性が共に慰安婦にされた。

去る四月二十二日、国会で沖縄の慰安所設置は七か所ぐらい、という政府答弁がなされた。そんなものではない。九月に沖縄で開催される「全国女性史交流の集い」実行委員会の代表が急きょ記者会見し、資料収集、聞き取り調査の結果の中間発表として、慰安所の数は、沖縄全島で五十か所にも及んでいると発表した。実行委員会としては今後さらに調査を進め、「交流会」の「戦争と女性」分科会で報告する予定だという。

沖縄に連れて来られた多くの朝鮮女性たちの中で、ただ一人去年十月まで沖縄に生きてバ・ポンギさんは、一九七五年に、沖縄への在留許可を取得するため、不本意ながら過去を明らかにせざるを得なかった。彼女について、映画『沖縄のハルモニ』や、ノンフィクション『赤瓦の家』などで紹介されたが、そのことが慰安婦問題の今日的展開にまでなったきっかけにもなったといえよう。

彼女が慰安婦を強いられていたのが、今では那覇からフェリーで一時間十分で着く慶良間諸島の一つの渡嘉敷島である。

慰霊祭

その渡嘉敷島で、今年の三月一日、沖縄、日本、中国や他のアジア各地の戦場で慰安婦にされ、命を踏みつぶされて亡くなった多くの女性たちの魂に思いを馳せながら、慰霊祭が行われた。韓国教会女性連合主催の「従軍慰安婦追悼礼拝」は、抗日独立運動の記念日である三月一日を特に選んで行なわれた。

その日はまるで真夏のような暑さで、晴れわたった空、照りつける太陽の光をうけて、海はエメラルドグリーンにきらめき、砂浜は目にしみる白さだった。

その砂浜に立つ「追悼の旅」一行の、白や薄紫のチマ・チョゴリ姿は、映像的には、まさに美しく平和そのものであった。

沈美子さんと黄錦周さんの元従軍慰安婦だったお二人も含めた韓国からの二十八人に、在日韓国教会関係の三人、沖縄から三十人が加わって、式は、砂に立てられた高さ二メートルの素朴な木の十字架の下で行なわれた。砂地に広げた韓国の旗の中心に向かって参加者全員で菊の花をたむけたが、韓国挺身隊・従軍慰安婦問題対策協議会の代表の尹貞玉さんの思いをそこに見るようだった。「慰安婦は民族の歴史の主人公です。彼女たちは終戦になり、歴史から消え、私たちが忘れたために二度死んだのです。慰安婦たちを当然立つべき場に立たさなければ」。

風を入れる……

那覇空港到着早々に持たれた記者会見で、黄錦周さん（六十九歳）が十数人の男性記者たちへ発した第一声は、「あなたたちの姿は昔の日本兵を思い出させる」であった。その言葉に、今は高齢の域に入っている彼女が、五十年前、確かにまだ十代の少女であったことを、その時改めて実感した。

また、沈美子さん（六十九歳）も夜の集会に集まった二百五十人の人びとを前に、軍の関与と軍隊の姿を証言した。「私は十六歳で、月曜から金曜まで一日二、三十人、土曜、日曜には四、五十人の相手をしました。生理だからと拒否するとただたたきました。軍隊は電話一本で、数十人の女たちを戦地に呼びだし、私を含めて、何千人もの女たちが、数十

"無名納骨"に怒り、涙

渡嘉敷村で従軍慰安婦追悼式

「最も不幸な人生」

元慰安婦ら
めい福祈る
日本政府を糾弾



元従軍慰安婦2人も参加した韓国教会女性連合の追悼式
—渡嘉敷村渡嘉志久

沖縄戦でなくなった従軍慰安婦の追悼式が、一日、渡嘉敷村の渡嘉志久海岸で行われた。二十九日、来県した韓国教会女性連合・朴純金会長一行二十八人のほか、元渡嘉敷村の座間味毅村長や受け入れ団体の日本キリスト教団、反戦ガイトの会など多数が参加、従軍慰安婦として進行され、本名も知られることなく死んでいった朝鮮人慰安婦を慰霊した。村内の白土の塔には四人の慰安婦の遺骨が収められているが、名前もはっきりしていないことに参加者は強いショックを受け、改めて日本政府の慰安婦問題への責任を追及する声が上がった。

追悼式で座間味村長は「本村には七人、四人が亡くなった。彼女らは当時、若くしてに悲惨な青春を過ごした。村民一同、心からめい福を祈り、この世でこのようなことが再びないよう祈る」とあいさつした。

白い砂浜が続く渡嘉志久海岸は特攻基地が置かれていた。木製の十字架が建てられ、チマチョゴリを着た女性が砂浜に置いた韓国旗の周囲に次々と菊を献花した。

礼拝では、元従軍慰安婦の体験紹介のほか、沖縄からの元慰安婦の名前が刻まれている「同じ女性として朝鮮・

元従軍慰安婦だった黄路周さんは「思っていたが、ここに連れて来られた人たちが最も不幸だ」と怒りを隠さなかった。

公民館での記者会見で、元従軍慰安婦だった沈孝子さんは、日本政府の対応を糾弾しながらも「国民の皆さんが善なる歓迎をしてくれることを想像しながら、たのびうれしかった」と語った。

1992年3月2日『琉球新報』より

回もそれを強要されるのを見ました。私は六年間慰安婦を強いられました。若いころたくさんの夢があったが、一つも実現しませんでした。子どもを産むことも結婚することもできず、残されたのは、心臓病をはじめ、大きな病氣を持つ六十九歳の老体だけです」。

それにしても、六年間の体験を、たったの三十分以内で話してと頼む私たちも、実は大変理不尽なことを彼女たちに強いたのではないだろうか。

さて、この「追悼の旅」受け入れに先立ち、私は、今年の一月の末から二月の初めにかけて韓国を訪ねた。ちょうどソウルは旧正月で、雪の降る中でも市場は活気に満ちていた。慰安婦問題に取り組む女性たちのところに、元慰安婦だった女性たちが相次いで名乗りをあげていた。その中の三人の女性を訪ねることができた。

特に、仁川市に住む李相玉さん（七十一歳）は、十四から二十五歳まで、なんと十一年間も、サイパン島などで慰安婦とされた方だった。十四歳の時、他の十九人の少女たちと連れてゆかれたが、彼女は自分の唇を噛んで兵士たちの強姦に耐えて、その傷跡が今でも唇に残っていた。抵抗した時の銃剣の刺し傷が胸に残り、彼女以外の十九人は全員殺されたという。彼女は全身の体の痛みと極度の頭痛に苦しみ三百六十五日薬を吞み続けている。彼女はどんな真冬であっても、毎晩外にでる。冷たい風が頭に染みると少しは頭痛が和らぐと感ずるからだという。それを彼女は「頭に風を入れる」と表現していたが……。

五十年の間、誰にも自分の身に起こったその忌まわしい体験を、それこそ親しい友人にも語らなかつた、語れなかつた。飲み込んだ苦しみが心臓を、頭を、体全体を内側から痛みと

なって打ち続けているのだろうか。そしてこの痛みは、同じ状況の下に生きた他の女性たちにも共通のものである。

一体戦争とは何だろう。軍隊とは、国家とは何だろうか。そして、女の性をこれほどに貶め軽んじてきた社会とは……。

沖縄に生きたベ・ボンギさんを忘れないこと、また、五十年の沈黙の痛みから、勇気をふりしぼって名乗りをあげた女性たちに、その決断の行為を決して後悔させてはならないと思う。

砂浜での慰霊祭を終えて、美しい海岸線や島々の姿を眼下に一望できる丘に立って、景色の美しさとそよ風に誘われるかのように、誰かが「アリランのうた」を歌いだした。その歌に合わせ、沈美子さん、黄錦周さんの二人も、美しいチマ・チヨゴリの袖や裾をなびかせながらまるで少女のように軽やかに踊り続けた。沖縄の海風に少しは命の痛みが和らいだだろうか……。

彼女たちの名乗りが、証言の旅が、心から良かったと思える状況を、政治的に、社会的に、文化的につくり出してゆくためにも、沖縄での取り組みをしていきたい。

「従軍慰安婦追悼の旅を迎える実行委員会」として

元従軍慰安婦の証言

①

「従軍慰安婦日韓交流集会」にて

今年三月二日、〈東京YWCA〉・〈売買春問題ととりくむ会〉の主催する「従軍慰安婦日韓交流集会」が参議院会館に於いて行われた。
沖繩での追悼集会を終えて東京入りしたのは、元従軍慰安婦の沈さんと黄さんを含む韓国キリスト教会女性連合会の二十八名。会場には入り切れない程の人が押しかけ、証言者の話に耳を傾けた。

沈美子（シム・ミジャ）さん

（六十九歳）

日本の一世、二世、三世のみなさまに、私がどのよう
に肉体的に苦痛を受けたかお話ししたいと思います。
一九四〇年、私は十六歳、固い蕾のような乙女でした。
刺繍がうまいから、日本の地図を刺してくれと頼

まれたので、刺繍をして担任の先生に差し上げました。
数日後、教務室に呼ばれました。そのとき教務室には
警官がいて、わが国の花は「桜」である、なぜおま
えは「朝顔」の花を刺繍したのか、お前の思想が怪し
い……と言って警察に連れて行かれました。私はただ
「朝顔」の花がきれいだから刺しただけなのに。そし
て警察で強姦されました。そのとき私は死にものぐる
いで警官の耳に噛みつきました。そしたら竹の細い棒
で爪の間を刺され、肩には真っ赤に焼いてあるこてを

あてられました。私は人事不省になり、気がついた時には福岡に連れてこられていました。私はケガをし、火傷をしていました。今でもそのときの傷で身体が不自由です。先についていた慰安婦にここはどこかと尋ねると、福岡だと言いました。彼女たちは、目で見てわかることがあるから待っていると言いました。三時か四時になると軍人が入ってきました。そして寝床に入っていくのでびっくりしてしまった。指は腫れ、肩は痛む。それなのに日本の軍人は一日に二十人、三十人、多いときは五十人、六十人来て、私を共同便所としました。

皆さん御想像下さい。

慰安婦となって三か月後に、日本の天皇ヒロヒトさんが命令して連れてきなさいと言ったということがわかりました。なぜ日本の戦争で韓国の女性が犠牲にならなければならないのか、子宮が赤くなって火照るほどに……。ある憲兵がせんざいを買ってやるからとジープに乗せてくれました。ジープの窓から綺麗な着物を着て歩いている女の人が見え、うらやましさと恨めし

さで張り裂けんばかりでした。本当はあなたが慰安婦になるべきだ。どうして韓国人の私が犠牲にならないければならないのか。

私は十六歳でした。どうして日本の兵隊を相手に辛さ、痛さを我慢しなければならぬのか。考えると辛くてたまりませんでした。性病になり、血や膿を流して苦しんでいる人がいました。薬を日本軍に頼んでみました。私も注射をし、他の人にも打ってあげました。そんな苦痛の中で年月を過ごした私でございます。私の呼び名は挺身隊慰安婦七番でした。あまりの辛さに拒んだら、子宮に銃を挿したり、刀を入れたり、筆舌に尽くせない思いをしました。死んだ人もいました。軍人の将校、警察の幹部、高級将校たちは身体のすんなりして綺麗な人を妾にし、移動の時はそこに捨てていきました。日本人は大勢いるのにどうして韓国の女性が共同便所の役割をしなければならないのですか。敗戦後、挺身隊慰安婦にはお金が一銭もなく、はらからに会いたいけれど食べるものもなく、置きざりにされました。ごはんを食べさせてくれ、と哀願してもだ

めでした。八年間働いた、身も心も傷ついた人たちはかりでした。挺身隊慰安婦出身だからお金もなく、性病を治療することもできず、痒くて痒くて死にものぐるいになっているとき、日本のおばあさんにタンポポの根っ子をとってしぼり、飲んだり患部を洗ったりしなさいと教えられました。

私は、父母の愛をいっぱいを受けて育ち、顔も綺麗で刺繍もできる女の子でした。そんな人生がスタスタになったのです。ヒロヒト天皇の命令だといって、村長などが娘たちを狩りたてた。

夢も多く、希望も多い一人の乙女でした。日本の兵隊に踏みじられ、子どもも産めなく、結婚もできなく、周囲には誰もいなく、寂しく恨みでいっぱいこの呪わしい人生。孤独にむしばまれ、積み重ねられた不安と絶望。

人並みの幸福を求めて韓国に行きました。同年輩の人たちは結婚して幸福そう、私の胸はどんなに痛かったでしょう。皆さんご想像下さい。立場が逆だったらどうでしょう。胸に手を当てて考えてみてください。

あなたたちはお金をいくら要求したかと言います。午前中の記者会見で若い記者がこんなことを聞くのです。私は気を失いそうになりました。私は六十九歳の人生をお金にかえに來たものではありません。皆さん、私は思い出したいもないことをここで話して、胸がスーとしたくてきたのです。お金を貰いにきたんではありません。全世界を回りながら、日本の軍隊はこんな残酷なことをした……と皆に訴えて回りたい気持ちです。

~~~~~  
黄錦周（ファン・クムジュ）さん

~~~~~  
（七十一歳）
~~~~~

私はこんな汚点は恥ずかしくて、口を噤んで誰にも言いませんでした。でも今日は勇敢に語ります。

若い男性女性には申し訳なく、三十歳以上の家庭持ちの人には自信を持って話しかけます。果たして嘘か本当か耳を疑うでしょう。

私は満州の吉林省というところで思い出したいくもな

いこんな生活をしました。皆さんこんな話をはじめてでしょう。男という動物がどんなことをしたか、皆さん日本人ならよく聞いてください。私はこの証言をするために生きてきたのです。

連れて行かれる時「助けて、助けて」と頼んだけど、このことは「天皇の命令だ、それは軍隊の命令だ、それは私の命令だ。命令に反したら刀で殺す」と言われました。それからのは、顔が火照って話せませんでした。強姦され、初めての体験だからびっくりしていた。食欲もなく、子宮は赤く腫れました。将校が弄んだ後部下に譲る、病気になって六〇六号の注射を何回も打たれました。妊娠してしまった時、自分ではわからない劇薬の注射で流産させられました。気を失って寝ていて、全身が腫れてくると隔離され、直ったまた行為を強いるのです。前線に移動するとき、新しい娘を連れて来ました。強制的に七―八時間もさせられ、子宮が腫れると犬畜生でもないのに男の性器を舐めなさいと言っんです。それも痛くてできないと言ったら、ほったを引っぱたいて強制的に入れ、絞るのです。

「私は犬か！ お前たちは人間じゃない」そんなことを言ったら、殴る蹴るの暴行を受けいまだに身体が不自由です。

三日くらい気を失っていました。気がつくとは樺太でした。二―三か月経つと、荷物みたいに扱われ吉林省に帰ってきました。身も心もズタズタになっていました。三年たち敗戦になった時、人の声がなく変だと思ったらみんな逃げてしまった。パンもない、水もない、何の対策もない。痛い身体を引きずって外に出てたのです。ヒロヒトが敗戦を宣言したから殺されるぞ…とも言われました。

慰安所には八人いましたが七人は重い病気だったので逃げられない。一人で帰ってきました。軍人の靴や下着を着て、杖をついてやっとの思いで…。そんな身体でも生に対する欲望があり、「生きなければ」と歩いて二か月かかりソウルに帰りました。ソウルに来ても家にも入れないし、かたわになったし、なんと言っていいか…。七十一歳まで兄弟・親類と行き来がなく、戸籍は娘のままです。皆さんは年頃になったら恋愛し

て、結婚して幸せに暮らしていることでしょう。挺身隊の人たちは……。

日本人はあまりにもひどいことをしました。早く死んでほしいと思っっているでしょうがそうはいきません。そのために必死で生きてきました。七十年の生涯、誰

のために犠牲になったか、皆さん、よく考えて下さい。敗戦前は無視されました。満州の人たちはもっと無視しました。私は世界の人たちに訴えます。生き残って証言します。

(記録・菅原政子)

## 元従軍慰安婦の証言 ②

ハッキリニュース(No. 5、6)より

今年二月十二日から十九日にかけて、ハッキリ会(日本の戦後責任をハッキリさせる会)のメンバーと弁護士三名は韓国を訪問し、裁判調査のため元従軍慰安婦の人たちの聞き取り調査を行ってきました。八名の方の証言を得ましたが、その中から四名の方の証言を御紹介します。

### 娘狩りの犠牲に

一九三八年、私が十七歳の冬のある日。日本の官憲が家に来て、強制的にトラックに乗せられた。病気で寝ていた父が泣きすがって連行を止めようとしたが殴られ、引き離された。私の村では、若い娘はみんな逃

げ、私一人しか捕まえられず、全羅南道ヨンサン浦までの道すがら、アチコチで娘狩りをし、四十人ほどが捕まえられた。トラックの中には二十人ぐらいの兵隊が銃を持っていた。まるで罪人扱いで逃げようとするのと殴打された。羅州警察に捕らえられていた七名と一緒ににされ、午後十一時ごろ、「ヨンサンポ」の駅から貨物列車に詰めこまれ十人の兵隊に見張られ、約三日かかって「天津」に運ばれた。貨車のなかでは水も食

へ物もくれず、話もできない監視下におかれた。天津では、チマチヨゴリ姿の多くの朝鮮女性（約一千人）が集められて、約十五人ほどに分けられ、各方面に連行されて行った。私たちは十五人で、トラックで三里ほど離れた前線部隊に送られた。ここで半分に分けられ、私は七人のグループに入れられた。八人の班は部隊の移動について点々と移動させられていた。地名はわからないが、中国人の民家に入れられ、土の上にゴザを敷いた二、三畳の部屋が各自与えられた。ドアはなくムシロが垂らされた部屋で、兵隊の相手をさせられた。私も処女であったので最初はひどく抵抗し、逃げようとした。各部屋に悲鳴が響き、私は犯され血だらけになった。こうした状況で全員が自殺を考えた。実際、七名のうち二名が部屋で首つり自殺したと聞いた。

一週間に一度、軍医の検診で性病検査をされた。食事は逃亡した中国人の家から茶碗を持ってきて、軍の炊事場で食べた。兵隊は毎日、三十名〜四十名やってきた。前線部隊だったので激しい戦闘が続いていたが、

日曜日は兵隊は休日だったので一番数が多かった。夜中にこっそり来る兵もいた。

ある時、砲弾が炸裂、足に六か月の重傷を負ったが、四か月前から兵隊の相手をさせられた。逃げ出したい思いだったが、地理もわからず、常に兵隊が銃で監視していたので怖くて逃げられなかった。二人が自殺した後は、夜、監視がしょっちゅう来て部屋を確認していた。

四年ほど後、「金基洙」という憲兵隊の朝鮮人通訳の男が協力してくれ、部隊が寝静まった夜中、脱出を実行。私たち三人に付き添ってピョンヤンまで逃がしてくれた。金さんは憲兵の格好だったので列車のなかでも怪しまれなかった。日本の敗戦のときは、ピョンヤンにいた。

戦後、三十四歳のとき、ある男性と三年間同居生活を送ったが、挺身隊であったことを隠しきれず、また子どもを産めない身体だったので申し訳なく思い、すべてを告白、代わりの女性を紹介して家を出た。以来、

今まで一人暮らしを続けている。私の人生は日本の戦争のために犠牲にされた。なぜ、朝鮮人の私を慰安婦にしたのか？ 日本の戦争遂行のために犠牲にするなら、なぜ日本の娘を慰安婦にしなかったのか？

私にいったい何の罪があったのか？ もし、日本の女性が反対に朝鮮によって慰安婦にされたというなら、こうした非人道的行為に對し、日本の人は黙っていないでしょう……。あの時、戦地で死んでいたほうが悲惨な生涯を思うと幸せだったかもしれない”。現在、月三万ウオンの生活保護で、身寄りもなく一人で生きている。

## 私の名はナガキ・ハルコ

一九二二年、忠清南道扶余で生まれた。

生家は貧しく、十二歳の時、百円で売られ、ソウルの金持ちの家で小間使いをしたが、奥さんがいじめる

ためその家を出た。以来、他家で子守、女中、小間使いをして、十七歳になった。その時、咸鏡北道ハムンの金持ちの家で女中をしていたが、一九三八年、満十六歳のとき、工場供出の員数割り当てがその家に来た。その家には、十九歳と十五歳の娘がいたが、結局、私が犠牲になり工場労働に行くことになった。四月ごろ、ハムンの駅に集合すると四十人ぐらいの十代の娘たちが集められていた。乗せられた列車の中は、窓全部に黒紙が張られ、どこを走っているかまったくわからないようにされ、軍人が車内を見張っていた。

次の日の夕方、満州のどこからしい駅で降ろされ、十五人ほどがトラックに詰まれて、数時間行ったところで降りると命令された。二十畳ほどの畳を敷いた部屋に通され、ここから一人一人呼ばれて兵隊のところに行き、兵隊の相手をさせられた。兵隊の寝台を使っていたが、ドアの外には兵隊が並んでいた。最初の十日くらいは「新品は将校」ということで将校の相手をさせられた。



慰安所といった建物はなく、毎日いろいろなところに連れられて行き、そこで兵隊の性処理をさせられた。それだけでなく、食堂の手伝い、洗濯、針仕事、土掘りまでさせられた。私の日本名は「ナガキ・ハルコ」で、私がいた場所は「吉林省」のどこかではと思われる。

私は、最初、激しく抵抗したがその将校は、「軍の命令だ。服を脱げ」といい、暴力的に犯された。それから、兵隊の欲望のままに相手をさせられ、生理のときも関係なかった。ある兵は、自分のベニスを犬のようになめろと命令し、また気にいらないと殴る・蹴るの暴力をはたらいだ。私は、何とか休みたいと、生理の時はわざとその血を身体中に塗りたくり、汚くして兵隊を遠ざけた。そうでもしないと生き延びられなかった。妊娠したり、身体の弱った女は掘った穴に入れられ、手りゅう弾で殺され埋められるからだった。

一九四五年の七月末ころから、部隊が騒然としてきた。

私は逃げようと荷物をまとめたりして機会を窺って

いたが、八月十五日の午後、突然「早く出ろ」と言われ、数名で逃げたが、帰る途中で一人になってしまった。

今は、一人で商売しながら細々と暮らしている。いつか私の味わった苦しみ、恨みを日本に対し晴らすことだけを胸に秘め生きてきた。しかし、悲惨な人生は語ることもできない。今も時々、練炭をみては「このまま練炭ガス中毒で死んだほうが楽かもしれないと思うことがある。挺身隊に対し、韓国ではまだまだ厳しい目がある。これまで結婚もせず子も産めず、この身の悲劇はすべて日本によるものだ。

日本は挺身隊にしたすべての女性に対し、謝罪と補償を誠意をもってするべきだ。



## 十六歳のときトラックで

小説家としての小川

一九二三年、私は忠清南道大川の貧しい小作農家に生まれた。

私が満十六歳のとき、母が村の娘が狩り出されていることを聞きつけ、おまえも危ないからもっと山奥の叔母の家に行き隠れるように言いつけた。これまでも娘を出せと官憲が来て母を靴で蹴ったり殴ったりしておどかしたが、母は身をもって隠してくれた。私は、叔母の家に逃げようと五日後、昼ご飯の後、目立たないように頭からチマをかぶり、山道を一人歩いていた。一時間ほど歩いた時、突然、日本軍人が現れ捕まえられた。げんこつで顔を殴られ鼻血でひるんだところを担当上げられ、トラックに運ばれた。トラックには日本女性が二人、監視員として乗っており、娘たちは三十八人くらいが補えられていた。十八歳より若い娘で互いに手を取り合い「私たちはもう死んだも同然だ」

と泣いた。もう一台のトラックにも二十人ほどの娘が乗せられていた。その日着いたところには倉庫があり、我々はその夜、握り飯と水を与えられ、何日かは夜だけ移動が続いた。それから汽車で二日間行き、三日目に着いたところが北支の「タイカチン」だと聞いた。そこからさらにトラックに移され、三、四時間かかって「オオテサン」というところで降ろされた。

慰安所は城壁のなかの部隊の中にあつた。三十八人はそれぞれ板で区切られた二畳ほどの部屋に詰め込まれた。床は板の上に軍隊毛布を敷いただけで、入口にはカーテンがかかっただけだった。食事は決まった軍人が運んできたが、飯盒飯とみそ汁が主だった。最初、監視は厳しく、五人の兵隊が一時間交代で見張っていたが、一年くらいつと三人に減った。朝は一般の兵士、午後は少尉・中尉が、夜は班長が主にやって来た。私は、逃げようとしたが城壁も高く、監視が見張っているため逃げられなかった。結局ここに二年半いて、私は逃亡した。

ある時、我々は「大日本国防婦人会」のタスキを掛

けさせられ、慰安所の外に出されることもあった。その時は決まって、八路軍捕虜の「肝だめし」を見せられた。座らされた捕虜の前に穴を掘り、日本軍人が刀で捕虜の首をはねるのだ。首が斬られ、まだ身体がピクピク動いているのも見た。また、シェバードに捕虜を追わせ、噛みつかせて気絶した男を穴に入れ銃剣で刺し殺すところも何度か見た。こうしたところを十回以上見たと記憶する。

衣服は最初、チマチヨゴリだったが、軍から日本の着物、帯、長じゅばん、腰巻などが配られ、戦勝の宴会などでは、着物着服の命令が出、城壁の外で催された将校の宴などにはべらされた。休みは一か月に一度、日曜日が当てられた。しかし、一日に相手する人数は三十人、四十人で、次から次へと男たちがやって来た。腰も足も痛くて死んだほうがいいと思ったことは、限りがない。

月経の時は、「私はメンスよ」といい、下着も汚したままにした。そのほうが客が来ないからだ。だが、メンスであろうが、体が痛かろうが、兵隊たちは欲望

のままだに我々の体を利用した。メンスでもコンドームをつけて相手をさせる兵隊もいた。慰安所でお金をもらったことは一度もなかった。ただ、一か月に一度、慰問袋が配られ、これが唯一の楽しみだった。袋の中には、石けん、クリーム、歯ブラシ、千人針、腹巻、缶詰などが入っていた。しかし、兵隊たちは、何か気に入らないと「朝鮮人が……」「この野郎！ 朝鮮人のくせに、張り倒してやる！」と差別、罵声を浴びせた。こうした状況のもとで、自殺・病死で死んでいった女も多い。そして、二年半くらい後、城壁のなかで軍人相手に衣服商売をしていた朝鮮人夫婦と知り合い、状況を打ち明け逃げることを頼んだ。彼は、天津に引っ越すので、いい日時を知らせろといい、結果、私は、衣装箱のなかに隠れ、慰安所から脱出したのだった。そして、私は、その衣服商の養女として天津で暮らし、二十四歳の頃（一九四六年）、彼らと共に帰国したのだった。故郷に帰ってみると、父は軍属として私が連行された五か月後に南洋群島に徴用され戦死し、妹は戦時中に死んで、兄だけが残っていた（その兄も十年

前に死亡」。

私は、本籍をソウルに移し、一人で働きながら生きてきた。しかし、慰安婦だった過去については恥と思いい、いっさい誰にも話さず、自分の過去がばれそうになると、人知れず姿を消した。こうして五回引っ越したことがある。

今は持病の糖尿病もひどくなり、働くこともできず、身寄りもなく、水道、トイレもない部屋に、月四万ウォンの家賃さえ払い切れず、生活保護をもらって細々生きている。月三万ウォンと米十キロの生活保護だけではとうてい生きてはいけず、体の調子のいいときには宴会の手伝い、ニンニクの皮むきで一キロ二百五十ウォンの内職をしながら、頑張ってきた。しかし、時々自殺したいと思う。正直に告白すれば、今日の聞き取りまでは、五月に死のうと思っていた。

だが、日本に対し思いのたけをぶつけるまでは、まだ、南洋群島で日本のために死んだ父の墓を建てるまではと思ひ直して、今日まで歯を食いしばり生きてきたのだ。

ハッキリニュース (NO. 5, 6) より

日本の戦後責任をハッキリさせる会発行

---

## 住井すゑ

「橋のない川」第七部出版記念講演会

# 九十歳の人間宣言

いまなぜ、人権が問われるのか

6月19日 (金)

午後1時開場・午後2時開演

日本武道館 (地下鉄九段下駅下車②番口より徒歩5分)

入場料=2,500円 (全席指定・消費税込み)

お申込み・お問い合わせ

主催 抱樸舎 〒300-112 茨城県牛久市城中77 住井すゑ方

電話 0298-72-0236

抱樸舎東京連絡所 〒102 東京都千代田区九段南4-3-3

電話 03-3230-4805

後援 新潮社

---

# 冤罪と従軍慰安婦

前林則子

空白の時間の償いは？

三月二日、参議院会館にて「従軍慰安婦問題日韓交流集会」が開かれた。会場は椅子が足りなくなるほどで、百名を超すひとが参加した。私も「あゝ」のメンバー二人と共に参加した。

元従軍慰安婦だったという沈美子さん、黄錦周さんの話に会場からはすすり泣きが聞こえ、嗚咽している人もたくさんいた。話が終わった時に会場は拍手につまれた。私も拍手をした。しかし、ちょっとまてよ、

この拍手は何だろうか？と思った。彼女たちの憤りに連帯する拍手なのだろうけど、戦争が終わって四十年以上も経た「日本人」の罪は、どのようなかたちで償いができるのだろうか？話を聞くだけではもどかしいような気持ちになった。

そのもどかしさは、私自身が土田・日石・ピース缶爆弾事件でデッチ上げられた時の体験とも重なった。デッチ上げられている時、無実を訴えても権力はもちろんのこと、多くの人が「爆弾事件」と聞いただけで、関わりをもちたくないと敬遠した。マスコミに携わるジャーナリストも、事実を追及する以前に「人が死ん

でいる爆弾事件ですからねえ」と予断と偏見をもって、権力からの情報操作に洗脳されてしまっていた。獄中からせつせと手紙を書いても、「心」ある人は僅かだった。保釈で出た以降も、白い眼でみられた。

そこで私は一人ひとりと会って、目を見てデッチ上げのことを話した。まず私という人間を知ってもらうためにも、時間を惜しまずに努力した。集会の後は二次会、三次会に行つて、取調べのことや、デッチ上げられる以前の話をしたりした。支援の輪も少しずつ広が手応えを感じるようになった。

そして、裁判が判決近くになるころには、真犯人が新聞インタビュにに応じたこともあって、マスコミはデッチ上げられた私たちの声を取材するようになった。裁判所の前でビラを配っていると「頑張つて下さい」と声をかけられたりするようになった。あるいは学生時代に政治活動をして社会人になった人からは「僕がデッチ上げられてもおかしくなかった事件だ」と言われたり、私たちにかけられた「デッチ上げは『時代を共

有する』ような現象になっていった。

真犯人が名乗りでて、「安全」な裁判になったとき、多くの人はやっと事実を見つめる余裕をもち、デッチ上げられた私たちにも話しかけてくれるようになった。無罪判決の報告に、多くの人が喜んでくれた。でも、私にはあの白い眼と「爆弾事件だから」といって敬遠した人の言葉が忘れられない。

いま、元「従軍慰安婦」という二人の話に拍手した人も、もしかしたら、かつては「慰安婦」という言葉を聞いただけで敬遠したこともあったのではないかと、予断と偏見をもって、日本人は「慰安婦」や「朝鮮人」を蔑視してきたのではないかと、戦争が終わってから四十年以上の空白をどう償ったらいのだろうか。慰安婦にされた人たちに對して日本人は、二重の罪をおかしているともいえる。いま、「従軍慰安婦」問題がマスコミにとりあげられてきたが、それは慰安婦にされた人たちが真実を伝える努力をしていることと、日本が「安全地帯」に位置するようになったからかも

知れないと思う。

### 産む性を否定された「性」

デッチ上げ逮捕されて多くの人が虚偽の「自白」を作られたので、否認を通した私は「強い女」とみられるようになった。でも私にとっては「強い」「弱い」ということではなく、私が真実を守れたのは、取調べ中に女たちの歴史を感じたからであつた。

デッチ上げられた時、私は妊娠三か月の身体だった。それ故、デッチ上げに対する憤りは、私の存在をかけたものだった。「権力の弾圧などに負けるものか」といった怒りは、戦争を体験した女たちの生活へと繋がった。母から幼子連れて防空壕に毎日入ったこと、ある時は電気を消し忘れて防空壕に入って、近隣の人から怒鳴られたこと、食べるものがなかったこと……でも、そんな中でも母は子どもを育て、子どもを産んだ。

また、本で戦争の話を読んでも、歴史の表舞台には出てこないけど、その底には女たちがどのような状況のなかでも、子どもを産み、育ててきたから今がある。どんな言葉よりも、これほど偉大なことはないのだ。人類の歴史は子どもを産み、育てたという事実だけで充分だと思う。

私は、長い時間の取調べの中で、戦争の時の女たちの苦勞を思った。その苦勞を思うと、デッチ上げられる身体は不自由でも、ひどい食事でも、三回食べられるのは、まだいいほうだと思った。そう思うと、どんな辛いことにも耐えられるようになった。「お前が犯人だ」と怒鳴られても、お腹の子どもに「私は犯人ではない。信じてくれるね」と話しかけ、真実を守ることができた。産む「性」をつぶされることがなかったのだ、デッチ上げ中も希望がもてた。もっとも取調官は「Mは、やったといっているんだ。Mの子どもはおろせ」と何回も言った。時には「Mがおろしてくれ、という手紙を書いたから今度もつてくる」と言われたり

もした。しかし、そういう手紙は見せられなかったし、取調官の嘘がわかった。

私は子どもを自由に産むことのできる「性」をもっとも大切にしたいし、男との関係でもそうでありたい。未婚だから、籍が入っていないから、国籍が違うから、高校生だから……と、産む性は権力に支配され、管理されている。でも支配・管理されても産むことはできる。ところが、騙されて慰安婦にされた人たちは、はじめから産むことを否定された「性」として、他国の戦争に組み入れられた。そこには耐えることの意味も、希望もなく、どんなに絶望的な日々であったか、想像を絶するに余りある。

いま、私たちは何をなすべきなのか。この日もせっかく参議院会館での集まりだったのだから、参加者全員で議員面会でも申し込むという提案をすればよかったと思った。「涙を行動に！ 憤りを行動に！」一日も早く、具体的な償いをできるように行動したい。



## 心と体の相談室 セラピィ

### 開設のご案内

私は、フェミニストセラピィ「なかま」の河野貴代美さんのもとの、カウンセリングを学んだ後、フェミニストセラピィ「窓」に在籍し、三年間臨床に携わってまいりましたが、この度、独立して新たにカウンセリングルームをもちました。

さまざまな心の悩み、職場の人間関係、夫婦間の問題、親子間の問題、性に関する悩みなど、どんなことでもご相談ください。

#### ■お申込みは…

お電話かお手紙にてご相談内容をお聞かせください。相談日や時間はできるだけご希望にそえるようにいたします。

#### ■受付時間は…

月曜日～金曜日の午前10時～午後4時

#### ■料金は…

カウンセリング 60分 5000円 ヨーガ 90分 3000円

セラピィ 代表者 河村ふみ

東京都新宿区大久保2-7-2 新宿ニューハイム共栄525

電話 03-3209-0295



## 今、なぜ、従軍慰安婦問題が

売買春問題ととりくむ会事務局長 高橋喜久江さんに聞く



今、なぜ、この問題が

Q 今、元従軍慰安婦だった人たちが名乗り出てきて、さまざまな問題が投げかけられてきています。

従軍慰安婦といえば千田夏光さんの『従軍慰安婦』が思い出されますが。

A この間『週刊ポスト』に千田さんの談話で「自分があの本を出した時は婦人団体だって何を今さらと言った」と出ていた。千田さんとはあの本が出た頃からの知り合いでしたし、婦人団体と言われるとすぐ自分のことと思っちゃうから、あら……と。千田さんがこの間ここにお見えになった時、「そう思っただけなんです」と言ったら、いや、「何を今さらと言った態度の所もあったが、歓迎してくれた人もいた」とちゃんと言ったが、そういうふう書いてくれなかったのです、とおっしゃるの。千田さんは「昔自分があれだけして、火をつけたけれども、男たちは黙っていた。今やと口を開いた。その間約二十年だ」と言っています。

当時、私はあの本で知らないこともずいぶん知って、よ

いご本を書いてくださいました、と千田さんにお手紙差し上げて、お会いしたのがちょうどキーセン観光時代でした。あの時、私自身はキーセン観光反対運動に取り掛かったばかりの時です。それに一所懸命だったから、従軍慰安婦問題で自分自身は行動できなかった。それに生きた人間のことのほうがより大切だったし。

とにかく、当時の世の中の体制がそうではなかった。こうなるのに今までの時間が必要だったのでしょうか。一つは日本の社会、戦争責任を果たすなどというものではないでしょう。この間、清水澄子さんが国会で、アメリカ政府の日系人へのお詫び、カナダ政府の日系人強制収容者へのお詫び、迷惑をかけた台湾人への補償を日本は日赤をとおしてしているが、その時日本が出した文書を手に入れて、この三通を比べている。アメリカやカナダの文書には誠実な態度が出ていると思うのです。それにわざわざ日本にまで人を派遣して調べているんですね。ところが日本の台湾に対する文書は味もそっけない書き方ですよ。政府に象徴されている日本の態度や体質が、今まで遅くなったのだなあと思います。

なぜ今かというと、何年か前から強制連行問題を、男も

女もだけど、いろんなグループが市民運動としてやり始めている。それを背景にしつつへ売買春問題ととりくむ会もこれにはいささかの貢献があったのではないかと自画自賛しています。

Q 慰安婦問題に取り組むことになったきっかけは？

A 一九八八年四月に韓国の済州島で開かれた韓国教会女性連合会主催の「女性と観光国際セミナー」に出席した時、韓国のスピーカー尹貞玉（ユン・ジョンオク）さんが従軍慰安婦の問題を講演なさったのです。尹さんのあげられた資料の中に日本ではよく読まれていた千田さんの「従軍慰安婦」がなかったので、どうしてですかとお尋ねしました。すると「あれは本ですか？ 記事ではないですか？」ときかれました。「いいえ、日本ではあの本が従軍慰安婦の問題を知らせる大きなきっかけになりました」と話しました。それで日本に帰ってから二、三冊取り揃え、また千葉県館山のへかにた婦人の村には従軍慰安婦のための碑が建っており罪の意識をもっている日本人もいることを韓国の人にも知ってほしいと、そこで発行している「かいた便」もあわせてお送りしました。以後、関係のものが日本で出版されたら全部送ることを私の務めとしてきました。また、

この年七月末に尹さんが来日された時、参議院会館で「尹貞玉さんを囲む会」を開催。またへかにた婦人の村」にもご案内しました。

〈売買春問題ととりくむ会〉としては、一昨年東京YWCAお茶の水会館が出来上がったオープン・フェアーとして十二月の人権週間に、今のブームに先駆ける形で、尹さんをお呼びして「人権と戦争を考えるつどい」を開きました。慰安婦問題を長年調べていらした方の語る言葉の重さに、苦勞してお迎えしてよかったなと思いました。

更に尹さんが昨年三月に来日した時は日本キリスト教協議会総会で従軍慰安婦問題決議にアピールしていただいて、長野県松代に韓国女性団体連合会長の李効再（イ・ヒョジエ）さんとお二人をお連れして地元のマスコミや山根昌子さんの協力で地下壕や「慰安所」見学をしました。

さて、なぜ今かというところ、やはり、日本側のそういう動きと、アメリカ政府、カナダ政府が戦後責任を果たしていた、それを日本の市民グループが突き上げていった、そしてわれわれ女たちが従軍慰安婦問題に絞って発言していった。国際的な動きも国内の運動も、そして去年は開戦五十年ということも時期としてあったでしょう。そこへ宮沢

さんの訪韓にあわせてポロポロいろんな事実が出てきた。それに、提訴が十二月六日にありました。やはり、波のうねりというのは、ありますね。

この問題の引き金は？

Q この問題を批判する人は、韓国でなく日本の女が口火を切ったと言いますが、韓国では〈売買春ととりくむ会〉の尹さんの講演会の前からずっと、動きがあったのですか。

A 何をもって最初とするかというのは、むずかしいと思いますけれど、韓国側の挺身隊問題対策協議会ができた、それに対してへとりくむ会あたりがカウンタートパートナ―として日本政府に書類を提出したりする時には首相官邸に届けたり、内容証明付で郵送するというようなお手伝いをしたりとかしていったことはありますね。抗議行動としては韓国のほうが先ですよね。何しろ九〇年六月六日の本岡昭次議員の国会答弁に対して向こうが怒り出したのだから。これが引き金になったことは事実です。

この問題では被害国である韓国の運動はそれはすごいです。韓国挺身隊問題対策協議会は、抗議行動として毎週

水曜日、日本大使館へのデモをしたりしますよ。

Q 私 は三月に韓国に行ったのですが、あちらの人は日本の女性たちが従軍慰安婦問題にとりくんでいることを知らないようですね。そういうことはあまり報道されていないのでしょうか。韓国の人と手を結びたいのですが。

A 向こうでは日本の動きに対してそんなに関心はないのよ。政府の動きは別として。私は在京の韓国特派員に集会の案内を毎度送りましたが、来ませんね。情報は少し入ってるはですが一般人の人は知らないかもしれませんね。

私から言わせれば、買春問題で今度ほど脚光をあびたことはいないです。だいたい買春問題は無視ですよ、だからマスコミをあてにできない。人が知ろうと知るまいと、自分がやるべきことをやるので、人を気にしていたのでは永久に陽の目を浴びない。

Q 国会での流れをお聞きしたいのですが。

A 確か竹村泰子さんの質問が最初だったと思うのですが、その時の答弁は「軍が連れ歩いた事実はない。民間業者が……」だった。その後、社会党の議員の清水澄子さん、竹村泰子さん、伊東秀子さんたちが、質問して、さらにその後、共産党の吉川春子さんが質問した。そうすると政府の

答弁が少しずつ前進した面もありますよね。宮沢訪韓前の「朝日」の記事がよかったわけけれども。短い時間に鉤脈をあてるというほどでもないけれど、ポロポロと事実が出てきた。政府は防衛庁の図書館にそういう資料があることぐらい知っていたと思うのね、だから政府の態度としては怠慢だったなあと思います。

その後、私は鈴木裕子さんたちと防衛庁の図書館へ行ったの。私は、皆さんが陸軍調べるから海軍を調べた。戦闘時より戦後処理として引き揚げの問題から出てくるかな、と調べてみると、出てくるのですよ。ラバウルから台湾へ婦女子二百五十三名とか。その気になって調べれば、かなり出てくると思いますよ。今度政府が資料を何十点か出すそうですが、それに何があるか、何をもって資料とするか。私などでも短時間の間で見つけ出せるのに。

#### 女性の人権と慰安婦

Q 話が変わりますが、日本人の元従軍慰安婦の証言というのはまだありませんね。

A 前からいますよ。かにた婦人の村の碑が建ったのは城

田すず子さん……『沈黙の恨』に出てくる方ですよ。伊東秀子さんのお兄さんがRKBで放映した『突撃一番』でも日本の従軍慰安婦を取り上げてます。韓国の犠牲者は本当に犠牲者だからすごく怒っているし、三月二日の沈さん黄さんの公開集会の時、『天皇ヒロヒト』というのが何回か出ましたね。ああ、この人たちは問題の本質をわかっているなあと感じました。しかし『突撃一番』の元芸者だった日本人の慰安婦の方は、病院を住所としている天涯孤独な人ですが、「今お金があって、暇があったら何をしたいか」という問いに答えて、「靖国神社にお参りしたい。それは自分に親切だった兵隊さんがそこに祀られている」と言ってます。被害者でありながら、被害の本質がわかっていないのよね。それは、痛みの程度の違い、時代の差異……。いかに日本の天皇制が庶民の中に巧妙に入っているか、慰安婦問題でも感じましたね。

Q 慰安婦問題の背後には民族差別や男尊女卑の性の差別があると思いますが。

A そうですね。従軍慰安婦の歴史的成り立ちについては皆さんいろんなところでご存じだと思いますし、歴史的紹介については鈴木裕子さんの岩波ブックレットNo.二二九を

お読みになるといいと思います。

殺人と強姦では殺人のほうが重くあるべきなのに、軍隊では戦闘中の殺人は合法化される。しかし、殺人が正当化される異常な社会でも強姦の正当性はみとめられていなかったはずですよ。それなのに、なぜ従軍慰安婦が見過されたかという、私は日本の公娼制度の文化がこういう非人道的なことを平気でさせた。日本の性の文化の貧しさというか、女の性を人権として見ない。それに身分制度もあったし、民族差別もあった。また、戦争というのは、命が奪われ、男も女も人権が失われる。

日中戦争の緒戦で将兵の民衆虐殺婦女暴行にあわてた陸軍は、軍直轄の専属遊廓を開設して、御用商人たちに女の調達を依頼したのですが、内地の遊廓業者たちは大量に自分たちの商品を手放すはなかったのです。プロをあつめるだけでは足りずに、朝鮮総督府に依頼して若い女性の有無をいわさぬ強制連行が始まったのです。公權力を背景に、こそこそではなく公然と、細々とではなく大量に行うやり方は、まさに政策として採ってはならない公娼制度ですよ。古くからあり、現在も残滓つづく公娼制度の影響で、天皇の軍隊が朝鮮の少女・女性たちを強姦し、性的

搾取をしたのです。その天皇の戦争責任を問えない日本と  
いうのはね……。またへとりくむ会にかかってくる男の人  
からの電話は、昔のことはなつかしい、ぐらいいの感じで……  
Q 私が係わった埼玉の従軍慰安婦110番では、なつか  
しむ人もたまにはいるけれど、ほとんどの人は悪かったと、  
反省するためにいろいろやっているみたいです。日朝友好  
協会主催でやったせいもあるでしょうが。

### 補償は個人補償で

Q 補償の問題で慰安婦のことは、みんなに浸透していく  
と思うのですが。

A みんなが、身銭をきればねえ。昨日も松山の男性から  
政府だけでなく、国民がみんな二千円ずつ出そうと提案し  
てきた。「ご趣旨は本当にいいのだが、へとりくむ会」の  
現在の力量ではとてもこの重責は担えません」と。いろん  
な人がいろんなことを言ってくる。ただ、私が何回か政府  
の担当者にかいたところでは、政府は要するに政府間決着  
をしそうですね。それじゃいけない。個人補償もしなけれ  
ば、韓国の犠牲者たちは納得しない。お金のことなら、消

費税とられるぐらいなら、戦後責任税というのをとられて  
も納税者として文句言わないわ、と言いたい。

私の提案は、アジア各国の日本大使館に窓口をもうけて  
本人申請を受付ける。千田さんは「個人保障は釈然としな  
い。死者が一番重い」と言われますが。そりゃそうだけれ  
ど、現実論としては、生きている人が大事ね。なにしろ、  
個人本人が大使館に自分が権利があることを申請して、そ  
の時詳しい場所や時、地理的条件を特定して、取り締まる  
軍人は誰々だったと具体的に述べてもらう。これをコンピ  
ューターで集大成すれば、そんなにお金はいらないし、  
報いることもできるし、材料も集まる。恥の材料もとにか  
く集めるべきです。事実、韓国の側では自治体を使って犠  
牲者の受付やっているのですからね。日本側はゴールデン  
ウィーク明けに関係文書を出すと言っているが、それだっ  
て強制連行の事実はないという言い方しているのよ。「そ  
れは、おかしいじゃないか、吉田清治さんだってあれだけ  
言ってるのに」と言うと、いや、公的文書には出てこない  
ということですよ。

Q 個人補償というのは、あくまでも自分が申請しなければ、  
ということでしょう。自分が出たくないという人は。

A それは、個々人の判断にまかせる。アメリカやカナダがあれほどしてるのに、日本はもっと悪いことをしてるのだから。私は殺人の次に性的搾取は悪いことだと思っている。だから、一番重く謝罪すべきだと。

Q 元従軍慰安婦の人たちは本当に貧困のどん底にいると聞きます。補償はなかなか難航すると思うのですが。

A 裁判は蓋を開けてみないとわからないと思います。門前払いになるかもしれないでしょ。尹さんたちだって、あくまで手段の一つですと言ってます。だから宮沢首相が裁判の結果を待ってなんて言たって、言い逃れだなと思います。たとえ、裁判を開いても、判決で日本政府を無罪にするかもしれないし。

### 主権者の責任

Q いろんな請求が出ていて、それに対する取り組みをやってらっしゃると思うのですが。

A 日本政府に碑を建てろというのは、私自身はしないなと思う。すでに民衆が建てた「かにた婦人の村」の碑があるじゃないの。記念碑はいいけれど、国立の慰霊碑という

のは、霊をなぐさめるというのが靖国の思想につながるから、という考えなのです。ただ、日本には戦争博物館などもないわけだから、悲劇を記録する意味で必要だし、それから教科書にきちんと書くなどということは賛成です。また韓国の大きな独立記念村に記念碑を建てたいという。私はそれに日本の女が寄付したらと思いますね。しかし「日本からの同情の金など受け付けるな」という韓国側の人々の気持ちを汲むことが先決です。

日本人は飽きやすいでしょう、今この問題に対してもっている熱意をみんながいつまで持続できるだろうか……。この運動をしていると、みなさんが熱い思いをもっているのは、感じます。もし国会議員がこの問題を本当に意に介せば、特別委員会をつくるとか、戦争責任を果たし補償もしようという国会決議をすることができるところです。ところが、へとりくむ会や矯風会が国会議員全員に国会決議をするよう声明を送っても、返事があったのは現職七百四十人の中わずか三人。

戦時中の罪をアメリカやカナダは正式に謝罪し、日系人に補償している。ドイツ政府も日本政府の比ではない。経済大国ではあっても人権後進国日本が名実ともに世界の大

国になるためには、謝罪と補償をきちんとしたかたちにすべきです。口先だけの謝罪に終わらず誠意をみせることが肝要で、それは個人補償というかたちにすべきだと思えますね。政府あるいは政府を支える官僚は、より大きな力が働かなければ自分から改革はしないでしょう。日本政府を現状のままに固定しているのは、私たち主権者の責任です。私たちがまず奮い立ってやるしかない。一人ひとりができることは、国会議員に働きかけること。私たちは選挙のときの一日主権者に甘んじてはいけないのです。

(聞き手 遠藤むら子、菅原政子、荒木のり)  
(文責 荒木のり)

### ●参考資料

・韓国挺身隊問題対策協議会文書

内容……国連人権委員会あて申立て文書、活動経過、女子挺身隊

頒価 3000円、送料175円

・ビデオ『沈黙の恨』（一九九〇年八月十五日放映の韓国KBSテレビ番組）ビデオ頒価 送料とも1500円

以上一点申込み先

売買春問題ととりくむ会

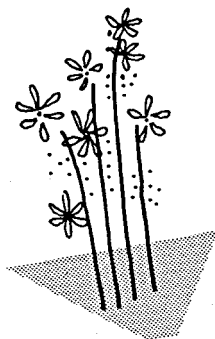
〒169 東京都新宿区百人町2-23-15 矯風会館内

### ●従軍慰安婦裁判支援基金についてのお願い

韓国在住の元従軍慰安婦、金学順さんたちは、現在、東京地方裁判所に日本政府を相手とする損害賠償の訴訟を起こしています。〈売買春問題ととりくむ会〉は、この裁判を支援し、同時に日本政府の責任を追求する運動を進めていきたいと思っています。つきまして、この問題にご理解をいただき、裁判を支援するための「基金」へのご協力をお願いしたいと思います。送金は、お近くの郵便局から振替用紙をご利用の上、左記の口座に

郵便振替口座番号 東京4-654781

名称 従軍慰安婦裁判支援基金





## 証言集に全国から大反響

隊長は浜田中尉でした。

日朝協会埼玉県連合会は一月二十九日と三十日の二日間、「従軍慰安婦一一〇番」を開設した。当時の政府・軍部の関与を裏付ける証言や体験が三十四本よせられた。

同連合会は、これらの証言を『証言・朝鮮人従軍慰安婦』(B5判30頁、頒価五百円、送料二百円)として発行した。この証言集は発行と同時に大きな反響をよび、注文とあわせ新たな証言や体験談がよせられた。ここにその一部を紹介してみたい。

憲兵隊で「慰安婦」の係だった

大宮市・市川一郎 72歳

元憲兵隊の上等兵として、終戦まで、旧満州(中国東北部)チチハルの近くの白城子にいました。隊は約三十人で、

私は朝鮮人慰安婦の係でしたが、慰安所にいく兵隊には名刺大の「証明書」を発行していました。証明書は、兵は黒、下士官は青、将校は赤でそれぞれ印刷されていて、そこに部隊名、氏名を本人が記入するようになっていました。憲兵隊には、各部隊から外出する人数、時間帯などを連絡してくる仕組みになっており、憲兵隊からも誰が警戒に行くかを連絡するのです。そして、憲兵隊は一般の兵隊にも気がつかれないように私服で慰安所などを見張り、翌日、慰安所に行つて「証明書」を慰安婦から回収してきました。これは、兵隊が同じ慰安婦とばかり接触すると、軍事機密が漏れたり情が移るのを防ぐためだったのです。ですから、月に二度、同じ慰安婦と遊んだ者は注意しました。

当時、慰安所は四、五か所あり、一か所に二十、三十人の慰安婦がいて、週に一回は軍医が性病検査をしていました。

終戦の近く、白城子を離れる時は街に火をつけて焼き尽くし、貨車で南へ脱出しました。一番列車には将校が乗り、慰安婦たちは民間人として扱い、なんとか全員を列車に乗せ、彼女たちから感謝されたことを憶えています。

戦争中のことについては今、深く反省していますし、この問題についての政府の態度は良くないです。元兵士が政府にもっとはたらきかけるべきだと思います。

毎年八月十五日には、反省の意味も込めて、前日（十四日）の夜八時、大宮の自宅を徒歩で出て、東京の寺までお参りに行っています。体の続く限り続けます。

## 軍医部が関与

所沢市・川辺ヨシ子 70歳

昭和十六・十七年（一九四一・一九四二年）、旧満州（中国東北部）の牡丹江省牡丹江市にあった陸軍第二飛行集团司令部第七五部隊軍医部堀田隊に、軍属（看護婦）として勤務していました。軍属としての正式の肩書は「筆生（ひっせい）」というものでした。

ここでは、カゼなど軽い病気をみる診療所のようなものが設置されていたわけです。重病者は陸軍病院に移されるのです。

堀田隊の堀田とは、当時の軍医長の名前です。また当時、

部隊にいた日本人女性は大イピスト、電話交換手、看護婦だけでした。

太平洋戦争が始まると、部隊の将校クラスは家族を日本本土に帰し始めましたので、宿舎が空いてきました。宿舎は街中にあり、部隊は郊外にありましたので、営外居住者はトラックなどで通っていました。

そこに朝鮮人の慰安婦の人たちが約二十人ほど来ました。朝鮮服を着ていたので、朝鮮人とわかりました。

軍医部では、慰安婦の検診をしていましたが、他の所からもトラックの荷台に立ったまま数十人の人たちが運ばれてきていました。

私は、土曜日の午後になると、部隊の兵隊さんに軟膏薬とコンドームを配っていましたが、行列ができてたいへんでした。

その頃は十八・九歳で、何をしているのかよくわかりませんでした。今考えてみると慰安婦の人たちには、同じ女性としてすまないことをしていたと思っています。

お話しして、ほっとしています。



## 銃を持った兵隊が護衛

浦和市・男 78歳

二十八歳で招集を受け、満州黒龍江省東寧県の、城跡江（？）に三年、兵役勤務しました。ソ連との国境の街でした。城跡江の街に、慰安所がありました。鰻の寝床のような細長い掘っ建て小屋で、仕切りは毛布か藁むしろのようなものでした。建物の周囲には銃を持った兵隊が、いかめしく護衛していました。

一か月に一日か半日我々（兵隊）にも休暇がでて、城跡江の街までは十〜十五分くらい鉄道にありますが、他に遊ぶところもなかったので、午後から夕方くらいまで、皆して遊びに行き、自分も遊びました。

いつ死ぬかわからない不安と背中合わせの兵役でしたから、悪いと思いつながら遊びました。兵隊の補給廠があり、休暇の日にはそこで衛生兵からサックを三個ずつもらって行くのです。

慰安婦を「ピーヤ」又は「チョーセンピー」と呼んでいました。彼女たちは普通、日本の和服か浴衣のようなものを着ていました。

便所の小便も凍るほどの寒さの所でしたが、慰安所の内には毛布が二〜三枚あった程度のものでした。寝たきりで動けないような婦人もいました。寒さも厳しく、彼女たちも気の毒だったと思います。

敗戦で復員し東京に帰った時に、東京にも赤線があり、アメリカの進駐軍が日本女性を相手にしているのを見て、戦争ではどこもこんなものがあつたんだと心が痛みました。軍が関与していたということは、この場所が明確なだけでもわかることですよ。

慰安婦の補償は当然ですが、軍隊で大きな犠牲を被った軍人恩給でさえ不足だらけです。戦後在日朝鮮人とは仲良く交流しています。せめてもの償いになればと。

## 動けない慰安婦

浦和市・男 76歳

昭和十一年招集、関東独立守備隊として満州に派遣されました。四個中隊が奉天の四平街からまだ前進しました。

そこで韓国の慰安婦を体験しました。慰安婦の数は十万とも二十万とも言われていますが、ほとんど死んでしまっ

てわからないのではないでしょう。私も百人の部隊で、除隊できた生き残りは、たった八人でした。軍隊で日曜外出できる時、七、八十人が並んで衛門で班長からサックを二つから三つ渡されて、外出許可が出るのです。

軍で造ったバラック建ての慰安所に走りまわりました。慰安所はベニヤ板で簡単に区切ってあって、そんな部屋が五、六つあって、一人の慰安婦に十人から十五人の兵隊が並び、「早くやれー早くしろー」と外で囁くのです。自分も二十歳で血気盛り、軍隊では死に行く目的だから、仰向けになったまま半病人の様に動けもしない韓国婦人は、休む暇なく屈辱を受け、気の毒でした。どんな謝罪も通用しないでしょう。その他、満州の現住民部落の婦人を強姦し、略奪しました。自分一人ではない、兵隊のほとんどは明日のない刹那に置かれ、こんな事が平気でできたと思います。誠に悪いことをしたと苦しんでいます。

ノモンハン事件で戦友はほとんど死んでしまいましたが、自分はその時、腸チフスを患い除隊しました。戦友の顔も慰安婦の姿も、みんなはっきり憶えています。今は一人暮らしで毎日がとても淋しく、話をして心が楽になりました。罪の荷を少しでもおろして死ねます。

私の料理屋の商売が終わる夜十一時半、暫く会わない岩本（理事長）氏より連日電話が入るようになり、とにかく殺されそうだと言う。男の大学生の電話の受け手等、コンドームとか慰安婦とか軟膏とか突然言われるので困ってしまふと言う。向こうは一生懸命訴えているから話がどんどん先へ進む、大変だよ。自衛隊員から、そちらが慰安所ですか？これから行くから道を教えてくれなんてバカな事を言うのもいて。脅しもある。そんな事やるな！背後に軍人組織の何かがありそうで身の危険も感じる。嬉しいのは、女子大生で、勉強したいから送ってくれ、と結構注文が入る。こんなに反響が凄いのではなく驚いた。注文の多いのに追われて、一同おかしくなっちゃうよーしかしどういう人が買ってゆくのか、自分の隊のことが曝し出されているかもしれない、という不安と恐れが電話の向こうでヒタヒタと感じる。注文は来ても情報提供者は少ない、と千田夏光氏も言っていたが、大変な事だったんだと改めてこの問題に取り組まねばいけない、と思ったと言う。

私の勉強がそれから始まった。  
地獄へ導かれた様に怒りが憂鬱へと落ち込み、私の原点がもう一つ地に下りた。  
(遠藤むら子)

# 訪れて気がついた——私にもあつた蔑視感

遠藤むら子

ソウルを一望したいと思い、日本統治館を最初に置いた南山に登り、私たちはその眺望に感嘆した。美しい漢江に

囲まれたこの地形は、南に南山、北に北岳、西は飛行場、

江華島、仁川と世界の海へ続き、東に農村穀倉地帯を控え、

王城の都京城としての自然条件も、産業地域としての発展

条件も兼備した、人口千二百万を抱える巨大な都市であつ

た。緩やかな坂に合わせて、曲がりくねる細い路地を残し

て、大地にへばりつくようにギッシリ埋め尽くす家々は、

地震のないこの街並みを時には古臭く、埃っぽく貧しく見

せるが、行きかう人の生き生きとした個性的な表情や動き

に、大地のエネルギーを直に吸い取ったような、土俗的な

力強さが私を圧倒した（統治しづらいたらうな、と苦笑い

する）。東京の人々の自ら造り上げた、高層ビルや機械文

明に呑み込まれまいとする、防衛本能の華奢な画一的な無

表情と動きに対して。

私のソウル観は一変した。自分にもあつた蔑視感に気がついたので。

朝鮮に対する同情、弱者や障害者に対する同情が差別を生む、それに似た蔑視感に。

北岳の向こうに中国が在る、と思うと途方もない大地の大きさを初めて感じた。この南山に最初の朝鮮統治館と朝鮮神社を置いて、アジア大東亜圏建設と夢を膨らませた男どもの気持ち、垣間見た思いだった。

与謝野鉄幹も福沢諭吉も夢みただのだ。鎖国から欧州へ、大挙して植民地政策とその産業発展ぶりに驚いた指導者たちは、鹿鳴館と共にその仲間入りを夢みただのだ。朝鮮国の王妃を殺してまでも。

中東、アフリカ、南米、ユーラシア大陸、南アジアと植民地下にし、次にアジアの大国中国と朝鮮を虎視眈々と狙う欧州の白人どもに対抗して。



悲劇はやがて着々と準備され、実行に移されていった。  
天皇制のもと、皇軍と共に。

#### ■ソウルで聞いてみた

三万円台という渡航費用の安さに魅かれ、慰労を兼ねて飛び立ったこの日は、奇しくも三月一日独立万歳事件（一九一九年）の日であった。同行した二十歳の女性に「わざとこの日にしたの？」と聞かれ、ちよっぴり後ろめたかった。しかし、今度のソウル行きは少々旅客とは違う緊張感があった。機中で証言『朝鮮人従軍慰安婦』を友に渡すと、東大哲学科留学生という男性が流暢な日本語で話しかけてきた。そして、日本の政府が資料を隠さず正直に全部公表して欲しい、それが日本の国際貢献を言うまず第一歩である、中学生の教科書に載せ、知識として知ることが日韓関係を良くする、人権問題として法的に解決すべだ、と熱っぽく語った。三十五歳くらいのソウルの添乗員女史は、日本の教科書に統治時代のことがあまりなく、この問題も載っていないので、日本の国民が知らないということを知っている。日本の女性団体や国民の人たちが、勉強して積

極的に運動していることを知って、非常に嬉しいと語った。留学生氏も添乗員氏も、友だちにこの運動をしている人がいるからと、連絡先をお互いに書いてくれた。やはり、こちらではこの問題は身近なことなのだと思う。

## ■韓国の買春ツアー

宿泊先のホテルは、キーセンさんがやたらとたむろしていて、エレベーターの中でも囲まれ、着いた十階は全部日本人だけだと言うが、なぜかひっそりしていた。仙台から来たという工務店の若い五、六人の男性に、夜お酒を飲もうと我々の部屋に誘ったが、さすがにキーセン観光で、とは聞けなかった。ロッセワールドのカジノでルーレットに負けたという。朝食もキーセンさんと一緒だった。日本語の上手な四十二、三歳のタクシীর運転手に、キーセン観光を男としてどう思うかと尋ねてみた。昔から偉い人や金持ちが遊んでいることで、今は日本人が遊んでいる、というだけのことだ。それだけのことで、何とも思わないと言う。男なら誰でも……とは日本の女性客の前では言いそびれた感じで、韓国の男も金があれば南アジアに行っ

てをしたい、いやしている？　そういえば、ある講演録でアジアの女性団体が告発しているということを、読んだことがあった。日本の男性の買春ツアーが問題にされて久しいが、経済的に急成長の韓国、日本よりもっと儒教の貞操観念の色濃く残る中で、外での安い買春を求め、日本の企業戦士の性の侵略と捉えるのと、もう一つ両国とも男性の女性の性に対する差別問題として捉えるのも大切だった。それにしても、日本を責める言葉や態度は一度もなかった。彼らが戦後生まれで、客に対して言えない礼儀を重んずる国の人のせいかもしれないと思う。

## ■日本人では

日本の七十歳代の人に従軍慰安婦の話を勉強していると言うとき、私の周囲のほとんどの人の回答は、お金を貰ってやった、軍隊にはつきものだ、男に女はつきものだ、世界中そうだ、補償など今さら、日本人もいたから皆補償していたら莫大だから無理等々、加害者の反省もなく、被害者への鎮魂もなく、七三一部隊のことも戦争だからとひっそりって吞み込んで、自分の行動もその時代も正当化させ

たり、開き直ったりしている。いざとなると戦争は仕方なかった、と本音が聞こえてくる。何も反戦思想なんか育っていないかったのだ。この証言集は、そういう中でやはり、勇気のある人たちではあるのだと思う。

戦争と侵略の反省から、主に米軍基地闘争の中で、憲法九条をその都度確認しあった闘いが平和を続けてきたこのありがたさ。そして六〇年安保で九条を死守した人々が、挫折の中で企業戦士になり、貿易利益をアメリカで大半稼いだ現在、安保容認は常に六〇パーセントを越えている。いやむしろ安保のお蔭でここまで経済大国になったのだ、

良かれと短い人生の中で何度も嘘を言うも一方のリーダーたち。南北格差がアジアの人たちへの同情へと変わる裏に、巧妙な経済侵略の新たな差別構造をつくり出し、飢えの前には日本政府の意図を知りつつも、経済援助を餌に軍隊派遣を容認させられる。そうして力をつけた日本の軍隊のその後は…。

湾岸戦争のアメリカが、力の論理を平和と経済のオブラートに包んで、中東を分断することで自国を優位にし、戦地を他国に求め…何か似ている。

私たちは従軍慰安婦の問題は、いろいろな所に波及する

ことを知っている。それゆえに重いテーマであり、長く闘い続けねばならない、とたくさんの方の資料や取材の中で確認しあった。

「だからって、自分が従軍慰安婦にさせられるなんて冗談じゃない！」と私が言うと、皆黙ってしまった。

## ■「第二次大戦に関する市民裁判」への提言

皇軍の国家の、そしてあらゆる個人も含めて、日本の戦前戦中敗戦までのプロセスの中で、戦前の憲法やあらゆる発せられた法の下に照らし合わせて、起訴し、懲役と罰金と補償費の具体化も市民の主宰する裁判として、判決を下すことを提案したい。戦争のためならどんなことをしても良いと書かれていたのだろうか。重要な歴史的犯罪としてこれを透して現憲法の大切さと現代のとるべき道を、国民で確認しかかわってゆく方法を考えるために。今を生きる日本人の歴史として、後世の人たちに済まないことをしたと謝る、壮大な検証を書き記しておかねばならないと思う。



# 補償と謝罪を求める裁判に支援を

「アジア太平洋戦争韓国人犠牲者補償請求事件」弁護団

福島瑞穂

一九九一年十二月六日、三人の韓国在住の元従軍慰安婦の人と三十二人の軍人・軍属であった人、またはその遺族、合計三十五人がそれぞれ日本国に対し、二千万円の補償と謝罪を求めて東京地方裁判所へ提訴した。

さらに、一九九二年四月十三日に六人のやはり韓国在住の元従軍慰安婦の人が、同じく日本国に対し、二千万円の補償と謝罪を求める裁判を東京地方裁判所に提訴した。

従軍慰安婦の問題は、女性差別の極致だが、もう一つに植民地支配の問題がある。この意味でも、戦後補償全体の問題として従軍慰安婦の裁判を起こすことができたことは良かったと思う。原告の方たちの話は、新聞などでも報道されているが、私自身が感じていることを伝えたい。

一九九一年の夏、韓国を訪れ、原告Aさんに会うことができた。氏名を公表せず、Aさんと呼ぶのは、提訴した三人のうち、氏名を明らかにしているのは金学順さんだけで、後の二人はAさん、Bさんということになっているからである。二人の名は一切明かしてはいけな、プライバシーは極力守ることが裁判の唯一の条件だった。それから見ても、裁判は起こしたが、顔や名前を明らかにできないのは、本人たちに与えた打撃がいまだに消えず、一度従軍慰安婦になって殺され、告発することで二度めにまた殺されるという状況があると思う。

原告Aさんは十七歳のとき、釜山で朝鮮の人と日本人の二人に声をかけられた。

「お嬢ちゃん、お嬢ちゃん、日本にいい仕事があり

ますよ。倉敷の軍服工場で、軍服でも縫えばお金が入るし、ミシンくらい買えるかもしれないよ」

その言葉を信じた彼女は、釜山で船に乗った。しかし、広島へいったん行き、海軍の根拠地だったラバウル島に連れて行かれた。彼女の場合は、民間人は一切登場しなかった。食料も薬も軍から支給されていた。

いつも、ワーツとトラックで彼女たちのいる慰安所に来ていた兵隊たちが、ある日からばったりと来なくなった。そのころは、彼女らの仲間が二十人くらいいたのが、自殺をした人が二名、病死をした人もいて、十四名に減ってしまっていた。Aさんは、ラバウルは最前線だったので空襲も激しく怖かったし、何度も自殺をしようと考えた。兵隊たちが来なくなったことはいいことだと、皆でお芋を作ったりして飢えをしのいでた。一九四六年三月になって敗戦、解放という情報をはじめて知らされた。戦いが終わったということも知らなかったのである。彼女たちは、韓国人に「韓国に帰る船に乗れ」といわれたが、また騙されるのではないかと躊躇をしていた。が、とにかく、ここにいても駄目だから帰ろうということで帰国した。

一九九二年四月に提訴した六人のなかには、吉田清治さ

んが書いた『私の戦争犯罪』に出てくるように、トラックに乗せられ強制連行された女性もいる。

連れて行かれるときの問題、従軍慰安婦として過ごしてきたときの人権侵害、その後放置されたあとの問題などいろいろ複雑である。たとえば、満十一歳のとき、台湾に連れて行かれたという女性も、今回原告になっているが、彼女はあまりにも子どもなので、慰安婦としては使えないから雑役係をさせられていて、紆余曲折のあと十七歳の年齢になってから従軍慰安婦になった。戦争が終わってもどうやって故郷に帰ってよいかわからないし、お金もないし、着ていく服や履く靴もない。朝鮮人慰安婦とわかると、日本に戦争協力したというわけで、台湾で殺された朝鮮人慰安婦もいたので、彼女は、身を隠しながら中国人だと偽り、台湾で何年か過ごし、そのあと船に乗り、やっと帰ったのである。強制連行や従軍慰安婦であったことの人権侵害も酷いが、彼女らの戦後そのものも苛酷なものであった。

日本政府は、一貫して「従軍慰安婦は民間業者が連れてただけで、いっさい国や軍は関与していない」ということを国会答弁でも繰り返していた。だから提訴するときも、国や軍の関与を明らかにすることが裁判の最大のポイント

だった。ところが、国や軍の関与・管理をしめすような証拠や証言が、一九九一年から一九九二年にかけて出てきたので、宮沢首相は訪韓する前に国や軍の関与を認め、訪韓のさいに、たとえ形式的であれ、謝罪をした。したがって、裁判での大きな課題であった国や軍の関与の立証は、獲得されたと言える。

いまでも、「日本に行けばよい仕事があるよ。ベビシッター、ウエイトレス、ブレーンホステス（売春を伴わないホステス）など、故郷に仕送りができるよ」とブローカーがリクルートしている。成田や羽田に彼女らが辿り着くと、彼女らは日本全国に売りに出されるのが現在のシステムだ。もちろん、朝鮮人従軍慰安婦の人たちは強制的に戦場に連れて行かれていたし、自発的要素はまったくなく、性の商品化以下である。したがって、問題のレベルは違うと思うが、「モノ」扱いされ、性の対象として使われ、そのあとは野となれ山となれとなっている。人権侵害を放置していることでは非常に今の状況も似ている。アジアに対する蔑視と女性蔑視の二つが見事につながっている。日

本の社会では、意外に根本的なところ、つまり従軍慰安婦を生んだ問題点は実は、あまり変わっていないのではないかな。だから現代の問題として、従軍慰安婦を考えることが「可愛そうな女の人たちがいて、酷い目にあった」という視点では、けっして問題は解決しないと言える。問題はつながっているし、すこしも変わっていない。従軍慰安婦の人たちが、まったく補償も受けられず、歴史も掘り起こされず、放置されてきたという点が、現代の問題であるという言い方もできるし、問題の根本自体は少しも変わっていない。バリエーションの違いはあっても、同じようなことを繰り返しているのではないだろうか。私は、戦争を知らない世代だが、現代の問題として解かない限りは、本当に自分の問題として迫ってこないのではないかと、いま一番思っている。

法的な問題としては、何を根拠に補償を請求するかということがある。裁判の訴状では、人道に対する罪を根拠にしている。ドイツのニュールンベルグ裁判は、平和に対する罪などで裁かれたのだが、一番最大なものは人道に対す

るものだった。これは民間人に対する殺戮、虐待、奴隸的な扱いなどを含めたもので、これでナチスの戦犯たちは裁かれたのである。人道に対する罪の定義は、いろいろあるが、ある特定の個人に対する攻撃ではなくて、ある一つの集団に対する迫害を人道に対する罪として裁判所は構成している。ナチスの人や、ポーランドで強制連行された人や、個人が何をやったか、どういう人かとはまったく問われないうで、ユダヤ人であるとか、ポーランド人であるとかで、強制連行されたり、迫害を受けたり殺されたりした。それをいえば、朝鮮半島の人たちはもちろん、中国、台湾、フィリピン、その他アジア諸国にとってもそうだと言える。とくに、朝鮮半島の人びとは、日本から植民地支配をされていた関係で、朝鮮民族であるというだけで迫害を受けた。創氏改名など同化政策がとられ、若い男性は強制連行、若い女性に従軍慰安婦として村から消えていった。だから、朝鮮の人ということだけで迫害を受けたのは人道に対する罪にあたると言える。

もう一つ言えば、朝鮮人従軍慰安婦は、プラス女性であることで二重に迫害を受けている。これは、ニュールンベルグ裁判で裁かれた人道に対する罪の定義にもあるように、

その集団に属しているだけで、そのような扱いを受けたわけであるから、人道に対する罪にあたる。人道に対する罪については、「人間性に対する破壊である。全人類に対する犯罪である」という言葉があるが、適切だと思う。従軍慰安婦の方のお話を一人ひとり聞いてみると、やはり人間性そのものを破壊している。その人は決して公言できないような魂の部分で傷ついているように感じる。人間性、全人類に対する罪として構成されている人道に対する罪で提訴をした。人道に関する罪はすでに確立された国際的な慣習法になっている。この慣習法を使って、そのまま日本の裁判所で適用ができるのである。

裁判では、日韓条約が問題になるかもしれない。ただ、日韓条約は、国と国との間の補償の問題としての取決めである。日本政府は、ソビエトで抑留された人たちに関して、日ソ共同宣言など日ソの間で、きちんと締結をしているが、個人がソビエトに対して補償を求める請求権は放棄されていない立場をとっている。そうだとすれば、同じようなことが日韓条約でもいえるのではないかと思う。国と国との

賠償の問題であって、個人の補償請求権というのは、国は放棄できないのではないかといえる。

つぎに時効の問題がある。ドイツはナチスの戦犯を殺人罪で裁くときに、特別法案で時効を延期した。私は時効などを国が持ち出すのは筋違いであると思う。彼女たちは、権利の上に眠っていたのではなく、そもそも告発ができなかったのだからである。

裁判は非常に長丁場になることは事実で、今回も七十歳前後の方が多いので心配である。また、訴えた本人しか救済できないので、訴えなければ実際に従軍慰安婦であった方でも補償されないのである。アメリカやカナダが、強制収容した日系人に関し、数年前に法律を作って、アメリカは二十万ドルを支払い、一人ひとりに対して大統領が謝罪した。あのような法律を作って実効的に解決する方法も考える必要がある。また、基金のようなものを設けて、あとは韓国政府に運用はまかせ、従軍慰安婦だったかどうかという調査をし、その人がそうだったということを確認して支払うやり方もあると思う。

裁判は重要だが、できれば運動のレベルで、この問題を立法などの方法で広げていかないと、本当の意味の解決ができないのではないか。この裁判で、元朝鮮半島に住んでいた人たちの問題はある程度解決するかもしれないが、中国や台湾や太平洋地域の島々などの他のケースの場合の問題は残る。今回の従軍慰安婦の問題は、あまりにも状況がシビアなものである、何かやらなくてはと、政府のほうも考えているように思える。この問題だけではなくて、その他の戦後補償の問題も解決する必要がある。そのためには、もっと広範囲の立法をする必要があると思う。

韓国には、博物館がいろいろあるが、日本には広島や長崎に原爆記念館や平和記念館があるものの、本当にどうして戦争が起き、どんな被害があるか、何が問題か、というような戦争博物館はないし、事実の糾明はされず、教科書にも反映されていない。裁判や立法では、ある程度の補償はできるが、湾岸戦争のときのように、九十億ドル払って、おしまいという感じでは何もしない。もっと、歴史を掘り起こすような努力が必要だと思う。

八月十五日になると、マスコミは、その日だけ戦争を考  
えるとか、風化させないためにとかやるけれど、なんとな  
く空しい。日本では、平和観とか戦争観とかが歪んでいて、  
いつも唯一の被爆国・日本、ヒロシマ、ナガサキ、東京空  
襲、といったような被害者の面からのみ語られることが多  
い。加害者の面から平和を語り起こしていく視点が欠けて  
いたのではないか。湾岸戦争やPKO法案などで言われて  
いましたが、やはり単純にお金を出すだけでは駄目だとい  
う議論さえ出ている。「血を出せ!」という人をテレビで  
見ますと、ウェーツと思う。血を流すことは、相手の血も  
流させることである。もうこれ以上、加害者になるのはた  
くさんだと思う。日本のなかで戦争や平和を考えると、  
戦後五十年近く、太平洋戦争のことをきちっと掘り起こし  
てなかったことが悔やまれる。

戦争は最大の人権侵害である。人の一生や運命をすっか  
り変えてしまう。裁判を通して戦争は最大の人権侵害であ

るということも訴えたい。裁判は長引くと思いますが、よ  
ろしく、ご支援をお願いします。

集会から

### 昭和天皇の戦争責任とその犠牲者問題

山崎 元氏の講演を中心に

四月三十日、午後、〈治安維持法犠牲者国家賠償要求同  
盟・婦人部〉の初めての勉強会が、平和と労働会館におい  
て行われた。講師・山崎 元氏は、南京大虐殺や朝鮮人従  
軍慰安婦問題……沖縄戦や東京、大阪、地方都市の空襲……  
など、国外、国内に夥しい犠牲者を出しながら、広島、  
長崎の原爆投下に至るまで、なぜ天皇は戦争を続行し続け  
たのか、なぜ「おそすぎた聖断」となったのかを、たいへ  
んわかりやすく、興味深く話された。そして日本の戦後補  
償が諸外国に比べてあらゆる面でいかに遅れているか、今  
問題になっている「従軍慰安婦」をはじめ、治安維持法で  
死刑にされた人は朝鮮では二十数名もいること、治安維持  
法や空襲の犠牲者に何の補償もされていないこと、被爆者  
援護法について、そして今持ち上がっているPKO法案の  
今後の展開について、熱心な話し合いがなされた。(荒)

# 戦後補償と軍隊慰安婦問題

「アジア太平洋戦争韓国人犠牲者補償請求事件」 弁護士団の林和男弁護士に聞く

## ■戦後補償とは何か

Q 今度の裁判では日本の戦争責任や補償の問題が取り上げられるのだと思いますので、その辺からお話を伺いたいのですが……。

A まず、戦後補償という言葉をぜひ覚えてほしいのです。知らない人が多いので、それで議論が混乱しているのです。戦争がありますね。するといろんな人に損害がおきます。そして戦争が終わって、その損害を埋め合わせる必要があります。場合によっては、お金で償えない損害があります。戦争中にユダヤ人や、日本の場合だと朝鮮人が迫害され、肉体的、精神的などさまざまな精神的被害を受けました。そうした被害者に対して、制度的に名譽の回復をはっきりさせる。つまり公式に謝罪する必要があるわけです。

戦争は何もかもめっちゃくちゃんにしますから、それが終わった時、正常の秩序に戻すため、いろんなことが必要で、

それを全部ひっくるめたのが戦後処理です。戦後処理の中には朝鮮は韓国にするとか、日本はしばらく占領されるとか、そういうことを含めて、いろんなことがなされます。その中に戦後補償というのがある。また皆さんがよく御存知の言葉で賠償というのがあります。

賠償とは国と国との間の問題です。勝った国が負けた国から、これだけ損害が出ているから埋め合わせろ、と賠償金を取る。しかし負けた国からは勝った国に賠償は要求できません。言ってみれば、強いやつが弱いやつから取る感じですね。

補償というのはそうではなくて個人の請求権なのです。戦争で被害を受けた個人が被害の原因になった国に請求します。また戦争で全然被害を受けていない人と被害を受けた人がいるので、被害を受けていない人が税金を払って被害を受けている人に払えば公平になる。西ドイツの場合は

片方のビルに爆弾が落ちたが、隣のビルには落ちなかったような場合に、何年にもわたって隣のビルから政府が税金をとって、壊されたビルの持ち主にやるという戦後補償が行われているそうです。残念ながら、日本の場合には、空襲の被害者に対しては全然補償をしていません。あくまでも軍人として行ったとか、お国のためにやった人だけを補償するシステムになっているのです。広島の場合などは運動によってある程度の補償がなされましたが、それでもまだまだ被爆者の援護はこれからですね。

補償についてもうひとつ重要な問題は、国境は関係ないということ。たとえばドイツの場合、一番被害にあったのはユダヤ人です。西ドイツ政府は、戦後協定で確か八百万ドルをイスラエルとアメリカのユダヤ人協会に出して集団的な補償をして、その後ユダヤ人個人個人に対しては、国内法として連邦補償法を作り戦後補償をしています。

#### ■日韓協定の問題点

Q そうしますと、日韓協定で従軍慰安婦の戦後補償はすでにいるという人たちがいますが、戦後補償と国家賠償を混同しているのですか。

A そう言ってよいと思います。……ただ、日韓協定についてはまだまだたくさん問題があるのです。当時の記録を見ますと、日本の国会答弁では賠償とか補償ということを一言も言っていないのです。あくまでもあれは経済援助だということ。ところが韓国の国会答弁の記録では賠償の放棄とひきかえに受け取るという話が出てくる。

Q どうしてそういう食い違いがあるのですか。

A 私たちもその辺を、もっと追求しなければいけないと思っています。少なくとも日本の政府の見解としては、五億ドルの供与は経済援助であって、賠償と関係ないよと当時は言っていた。しかしその後外務省が答弁するときは、日韓条約で解決済みになっていると言っているのです。

一九六五年十二月に「日韓基本条約」が結ばれていますが、これと同時に日本と韓国の間で締結された、いわゆる「請求権協定」の中に、請求権問題は最終的に解決したという条項があります。これが外務省などの言っている「解決済み」ということの意味です。しかし、その協定で言っている「請求権」とは一体何なのか。もともと一つの国だったのが分かれたわけですから、いろいろな財産の関係があったので切り離さなければならない、お互い相手にいろいろ



る請求権があるように見えても、ここでおあいこにしていまいましよう、そういう意味で請求権を放棄するという形にしたのです。だからそこで言っている「請求権」と戦争による補償とは性質が違うのではないかという疑問があります。

また、日韓協定は国と国との間の協定です。国と国との協定で個人の権利をなくせるのかという問題があります。国と国との間で「請求権はなくなる」と約束しても、それだけでは、個人の権利を消滅させる効力はないわけです。そのへんが去年あたりから国会で問題になっています。

もうひとつはシベリア問題との関係です。シベリアの場合は日韓条約とは反対で、シベリアに抑留された日本人には、ソ連に対する戦後補償の請求権があるのです。が、その請求権を放棄するという日ソ共同宣言の条項があります。だが、国と国との間で放棄しても関係ないのだ、と政府が国会で答弁しています。それで、日本のシベリア抑留被害者の人たちは、ソ連にできると答弁したのです。これが去年の三月です。

それで八月に社会党が、「では、日韓協定ではどうか」と質問した。すると政府のほうは同じ答弁をする。国

と国との間の協定ですから、韓国の被害者が日本の裁判所に請求することはさまたげないと。ただ、裁判では国はまた別のことを言っています。たとえば、最近の国会答弁では、日韓協定のときに、法律を作って消滅させたから、そういう権利はないのだという新手の議論を出しています。これに対して、私たちのほうも、憲法学者の知恵を借りたりして、弁護団の中で議論を深めているところでです。

#### ■諸外国と較べるとわかる日本の戦後補償のあり方

先ほどお話ししたように、西ドイツではユダヤ人の補償は進展したのですが、ユダヤ人だけではないのです。被害者は。ポーランド人とかを強制連行しているのです。日本における朝鮮人の場合と非常によく似ている。その補償が全然なかったのです。六〇年代からその人たちが裁判を起こし、補償要求運動をずっとやってきたのですが、一九七〇年に、西ドイツの連邦最高裁が、強制連行・強制労働によって健康を損なった被害者の補償請求を初めて認めた、画期的な判決を出しています。この判決の中で、強制連行は、ナシヨナリティー（民族ないし国民性）を理由とする迫害であって、およそ人権というものに対する侮辱であり、

人間性を侵す罪に該当すると言っています。それで八〇年代には立法措置もしてきましたが、まだ決して充分なものではなく、今後のドイツの大きな課題になっています。

ところが、日本の場合には、このような裁判は今まで行なわれていなかったし、在日朝鮮人の犠牲者などは、何の支援も受けられずに細々と運動してきたのです。その一方で、日本人の傷夷軍人や遺族に対しては援護が行なわれてきたのですが、その戦没者戦傷病者遺族等援護法に「戸籍条項」、一種の国籍条項がついているのですよ。この条項によって、在日朝鮮人を排除しているのです。日本国籍をもっている人でないため、というわけです。他の国の場合は、案外そうではないですからね。

Q 当時は日本が朝鮮を併合していましたね。その当時強制連行された人たちは、今の国籍が日本でないからもらえないのですか。

A それが詭弁なのですよね。当時は日本国民だったわけです。戦没者戦傷病者遺族等援護法と恩給法とは、日本国民で特別の被害を受けた人のためにある法律なのだから、日本国民として戦争の被害を受けたわけだから、もらえないければおかしいのです。ところが除外してあるのですよ、

実に巧妙に。日本国民でない人は除外すると書いてあるのではなく、被害を受けた後に日本国籍を失った人には補償しないと書いてあるのです。これは、恩給法の場合。援護法の場合には、戸籍条項で、戸籍法の適用のない人は払わないとなっている。戦前の戸籍というのは内地籍と外地籍に分かれていたのです。内地籍はそのまま現在の戸籍法の適用下におかれているが、外地籍つまり朝鮮や台湾やサハリンの戸籍については、現在それに対応する法律は日本にないわけです。ですから在日朝鮮人は除外すると書いてあるのと同じわけです。普通に遺族の援護をやっているれば、ある程度外国人は含まれてくるはずですよ。そういう意味で戦後補償も国内だけでなく、ある程度平等になるわけですが、日本の場合はわざわざ日本人だけに限ろうとして、ことさらにやっていることになります。

Q どうしてですか。

A どうしてでしょうね、日本という国の本質にかかわる問題ではないでしょうか。外国人労働者の問題なども繋がると思います。もっと早く日本の国民側がそういうことに気づくべきだったのです。被害者の外国人と話しているとだんだんその感覚がわかってくる。軍隊慰安婦ももちろ

んそうですが、戦後補償をやっていないということが、まさに日本の国際的態度の象徴なのです。戦後補償の問題を全くなおざりにして二度と戦争をしないとか、原・水爆禁止に協力してくださいと言っても説得力がないですよ。特に韓国の場合は、大部分の韓国人が広島や長崎の原爆は正しかったと思っている。あの原爆投下がなければ植民地支配は終わらなかった。原爆でたくさんの犠牲は出たかもしれないが、落ちなかった犠牲よりは少ないと。昨年も教科書問題などで、日韓の交流を計ろうとして、日本から、高校や大学の進歩的な先生方がソウルへ行ったのですが、韓国一般の人たちの間からは、「戦後補償もしないで何を言うか」というような声が強く、障碍の大きさを痛感されたそうです。

#### ■貧困の中の元従軍慰安婦

Q この裁判のためどのくらい韓国へいらっしゃいましたか。

A 昨年から五回かな……私が参加したのは。私たち全体としては、八回以上行っています。一回に三日か四日、旅館などに缶詰になって、今度の裁判の原告の人たちから聞

き取り調査をするのです。全部で百八十余人聞き取りをやり、原告になったのが四十一人です。私どもの訴訟では、できる限り事実を確かめて、あまり記憶のあいまいな人は遠慮してもらって、記憶がはっきりしていて証拠のある人を原告にしています。もう四十年以上も前のことですから、聞くたびに話が変わるのですよ。その辺を親戚の人から聞いたりに確かめたりもします。韓国の女性の場合は自分の生年月日を正確に知らない人が少なくないのです。陰暦何月かは知っていても西暦何年かわからない。戸籍をとればわかるかというと、戸籍の生年月日も正確ではありません。戸籍の届け出が五歳とか十歳になってからというケースがあります。

Q 男性はそういうことがないのですか？

A 遺族が、お父さんの生年月日を知らないというケースはありましたけれど。今回聞き取りをした男性の中には、生年月日の不正確な人はいなかったですね。慰安婦の聞き取りを始めてから知ったのですけど、自分の名前がわからない。つまり、朝鮮では、誰々のオモニ(母)とか普段呼ばれているのです。自分の戸籍に何という名前が書いてあるか知らない。特に、元慰安婦の中には名前を隠して生き

ている人もいる。ただ氏名と戸籍の関係は裁判所のほうで理解があったので、当初予想していたより、よかったです。

弁護団の中で分担があり、私が聞き取りをした元慰安婦は一人だけですが、全部で十五人ぐらいやったのではないのでしょうか。元慰安婦の聞き取りはなかなかむずかしいですよ。

Q 儒教精神が強い韓国社会で、死ぬ間際になって口が開けた方が多いということでしょうか。

A それはあると思います。それと韓国の社会がここ数年かなり変わっているのですよ。やはり、民主化の影響というのは、……ともかく今までより議論や主張がしやすくなった影響は大きいと思うのです。

もし、朝鮮戦争のような混乱がなくて、戦後処理がしっかり行われて、日本がやった戦争がどういうもので、連れていかれた人がどういう被害を受けていたかが大々的に明らかになっていけば、彼女らもずっと楽だったと思うのです。全然それがなかったでしょ。慰安婦は自分から望んで日本人の下世話をした女たちだ、日本の協力者だと思われていたふうがあります。軍人の場合は、徴兵はしないで志願兵という名目とっているのです。志願兵だけれど、

実際は志願しないと親父を牢屋に入れたり、家族に食糧の配給をしなかったり、強制連行で炭鉱に連れて行く。だから、純然たる強制なのですよ。しかし、あくまで志願兵という形でとられるでしょう。皇民化運動といって、朝鮮人という考え方をなくして、皇国臣民にして、お国のために尽くさせるという熱狂的運動を展開したわけです。志願兵として死んだ人もお国のために亡くなったとして葬式も大だ的にやり、軍神とか言って顕彰するわけです。だから志願兵に行った人は協力者と見られちゃうわけです。四五年に解放になって、牢屋に入れられていた人は出される。すると今まで植民地時代に皆をいじめていた人たちがいじめられるわけです。誰がいじめられたか、日本人に対して手を振り上げた人はいない。日本人の下にいた朝鮮人が殺されたのです。

今度の問題をきっかけにして、韓国の中でもその辺の考え方がだいぶ緩んできているようです。いま挺身隊問題協議会をとおして遺族会に登録してきた五十人以上の元慰安婦のうちかなりの人が本名を出してかまわないと。提訴したときは金学順（キム・ハクスン）さんただ一人だったのですが。

Q 名乗り出られずに隠れた慰安婦の方たちの補償はできないのでしょうか。

A その点で、何よりも実質のある立法措置による補償が望まれているわけです。もちろん、それでも、いくらプライバシーを尊重するとは言っても、出てこれない人はいれると思います。ただ、戦後補償というのは損害を埋め合わせることに並んで名誉の回復というのが大きいのです。だからこの裁判や運動をやっていくことによって名誉を回復する効果は、慰安婦の場合そうとう大きいと思うのですね。それによって名乗り出られる人は出られるだろうし、家族にこれをきっかけに打ち明けることができた人も今回かなりいるわけです。そういう形である程度の救済はできるのではないかと思うのですけど。ただ、元慰安婦の人たちの重要な問題は貧困からの救済ですよね。要するに結婚できなかった人も多いわけで、一人暮らしで非常に貧困な人が大勢いますので、できるだけ早くなんとかしなければならぬ。

## ■戦後補償と裁判の行方

諸外国では戦後補償というのはかなり進展していますが、日本は全然やっていない。ドイツの場合などは強制連行の被害者の運動など、裁判が非常に重要な手段として使われている。日本の場合には裁判はなかなかむずかしいのです。裁判が本場に適切な方法かどうか、最初から非常に疑問があるのです。

Q どうしてですか？

A 国家賠償法という法律があります。これは一九四七年、憲法が制定された後で制定された法律です。国家に賠償を求める時は、何でも国家賠償法を使うようになっています。今日日本でやっている憲法訴訟とかいろいろありますが全部国家賠償法を使っていきます。国家賠償法がなかったら国に賠償を求められないとされているわけです。ところが、この被害が起こった時は国家賠償法がなかったのです。国家賠償法には付則規定があって、従前の国家行為によるものは従前の例によると。

Q そこを改善できないのですか？

A むずかしいですね。国が改善するわけがないですから。要するに国家賠償法が使えない。そこで、みんなで知恵を絞ってありとあらゆる方法を考えるわけです。私たちの

訴訟は私たちのやり方。他の戦後補償の弁護団は他のやり方。互いに意見を交換したりして、よい意味で競争になっています。

私たちが使っているのは、ポーランド人の強制連行被害者などが、西ドイツの裁判所で使った国際法なんです。これは、「ロンドン四か国条約」に含まれている「国際軍事裁判所条例」という規則でして、戦後ドイツを占領した四か国（アメリカ、ソ連、英国、フランス）が、ナチス戦犯を裁くために協定し、実際にニルンベルク裁判で使われた国際刑事法です。その中に、人道に対する罪といって、ユダヤ人に対するホロコーストなどを処罰した条文があります。人道に対する罪という訳は本当はよくない。英語で言う crimes against humanity、人間性を破壊する犯罪。人ひとりを殺したといった、そんな生やさしいものではない。一定の人間の集団が営々歴史的に築き上げた文化みたいなものをひっくり返して、人間集団そのものを抹殺する行為を罪にしたものです。たとえば戦争の遂行を目的とする宗教的・人種的・政治的迫害。日本の場合だと、朝鮮人に神社参拝を強制して、神社の前に並ばせてお辞儀をさす。最敬礼させながら、その上で日本刀を振り回すわけです。

最敬礼しないキリスト教徒などを迫害する手口として使われました。そういうのはみな人道に対する罪に入ります。慰安婦の場合も明らかにそれだろうと思うのです。

日本国憲法では、確立された国際法は、国内法と同じ効力があります。したがって、この「人道に対する罪」が、民事の裁判でも使えるということが言えれば、私たちの裁判の根拠になるわけです。ドイツでは、連邦最高裁が、強制連行の補償を認めた画期的な判決（一九七〇年）の中で、この「人道に対する罪」を援用しています。日本の裁判官を上手に説得できるように、それを咀嚼しなおすのが、ここからの重要な仕事なのです。

ほかには、戦没者戦傷病者遺族等援護法の戸籍条項は、憲法一四条（平等権）違反で無効であるとして行政訴訟をおこす方法でやっている人たちがいます。国との間に雇用契約があった、安全配慮義務があったとして、労災みたいな形で請求するグループもいます。

Q 今扱っているのは韓国の人たちだけですか。

A この弁護団は韓国の犠牲者のためのものですが、私たちの関係者には、他の国を扱っている人もいます。たとえば、中国本土での調査が始まっていますし、七三一部隊の

人体実験犠牲者の遺族も名乗り出ています。今裁判を検討しているのは香港の人たちです。軍票というのをご存じですか。早く言えば、軍が発行する紙幣です。日本軍の場合、軍票を強制的に流通させるために、香港ドルを所持しているだけで処罰したのです。香港ドルを持っていた人たちは、家に置いておいただけで罪になりますから、軍票にかえたところが一九四五年に、日本は戦後処理をしないで撤退してしまつた。占領されていた時代に香港に住んでいた人たちは軍票しか持っていない。商業が中心の国で、元手がないうことで貧困になつてしまふ人たちがたくさん出たのです。今でも、トランクの中に日本軍の軍票をたくさん入れて持っている、飲まず食わずのおばあさんなどがたくさんいて、いま訴訟の準備をしています。他に行政交渉をやっているのはインドネシアの兵補ですね。連合軍の捕虜については、去年はオランダの女王が日本にきたとき、その問題を言つてました。

Q 訴状の補償額はどうして決めたのですか？

A 私たちの裁判では、最低限の金額として一応二千万円という線を出しています。しかし、この金額を決めるまでには、相当の議論をしました。一番高く主張した人が二億、

一番低く言つた人は二百万。

日本人と同じ補償をせよと厚生省に申請して、憲法平等権侵害で裁判している人たちがいるでしょう。その申請書を見ると、戦争が終わつて援護法ができてから現在まで、日本人の犠牲者だったら受け取れた額を計算して、物価スライドしていくのです。全部足して計算すると一人一億を越えます。しかし他方で、二年間ぐらい兵隊にとられて、怪我をせずに帰ってきたという人もいます。訴訟を起こす以上、一人ひとり金額を別にするのはやめようよ、という希望が原告のほうにもありました。そこで、これよりも少ないことはないという最低の金額として、訴状では一人二千万円としているのです。

Q 今後の裁判の予定は？

A 六月一日の午前十時に第二回の口頭弁論があります。訴状に貼る印紙代を免除してもらふ手続きや、元慰安婦の原告六人を追加する手続きをしていたので、法廷が開かれるのは、この時期になつたわけです。第一回口頭弁論は、原告の代表の人が三人ぐらい立って、話をする予定です。

(聞き手 菅原政子・荒木のり 文責荒木のり)

## 国会会議録に見る “従軍慰安婦”

一九九〇（平成二）年五月二十一日、第百十八回国会参議院予算委員会で、竹村泰子議員（社）が「従軍慰安婦」問題の調査を政府に要求したのを皮切りに、女性議員は日本の戦後責任の大きな柱の一つとして、「従軍慰安婦」問題を追求してきた。

この問題を忌避し続けてきた政府も最近の新資料の発掘によって、重い責任に言及せざるを得なくなっている。

最近の国会会議録の中から、伊東秀子（衆・社）、吉川春子（参・共）、清水澄子（参・社）三氏の追求の模様を抜粋した。

### 軍の関与に関する新資料を発見

伊東秀子

一九九二（平成四）年二月十九日（水）

第百二十三回国会衆議院予算委員会会議録より抜粋

○伊東秀子 従軍慰安婦問題では、一月に宮澤さんは訪韓なさって、日本国の総理として謝罪なさったその誠意には、私も大変敬意を表するものでございます。しかし、そこにやはり裏づけになる補償がないということで、大変韓国の

方々も、それから日本の私も含めてやはり悲惨な実態、従軍慰安婦の方々の実態を思うときに、非常に良心と誠意が問われているということを思うわけでございます。

平成三年の三月二十六日の参議院の内閣委員会では政府は、日ソ共同宣言における請求権放棄の問題に関して、放棄したのは国家自身の請求権及び国家が自動的に持っていると考えられる外交保護権であって、国民個人からソ連またはその国民に対する請求権までは放棄していないという御答弁をしておられます。

これを裏返しますと、つまり今従軍慰安婦の方々が日本



国政府を相手として損害賠償請求をしているわけですが、彼女らが個人として日本国政府に対する請求権、損害賠償請求、それは何ら消滅していないというふうに受けとめていいわけでございますね。

○柳井政府委員（外務省経済協力局長） いわゆる請求権放棄の条約上の意味につきましては、これが国家の持っている外交保護権の放棄であるということとは、従来からいろいろな機会に政府が答弁申し上げているとおりでございます。そして日韓の請求権の処理でございますが、いわゆる日韓請求権・経済協力協定におきましては、ほかの場合よりも若干詳しい規定を置いておりますことは、先生も御承知のとおりでございます。

御案内のことなので余り詳しく御答弁申し上げませんけれども、重要な点でございますので、ポイントだけ申し上げさせていただきますと思います。

この日韓請求権・経済協力協定の第一条におきましては、いわゆる経済協力のことを規定しているわけでございますが、第二条の第一項で、日韓の両国民間のあるいは両国民間の財産、権利及び利益並びに請求権に関する問題が、「完全かつ最終的に解決されたこととなる」ということを確認しているわけでございます。そして二項では若干の例外、すなわちこの協定による請求権処理の対象にならないもの

を挙げておりますが、これは戦後の通常の日韓間の取引に基づく財産権というようなものでございますので、従軍慰安婦のような問題には関係ないわけでございます。そして三項におきましては、要点としては、財産、権利及び利益に関する措置、国内的な措置、そして請求権につきましては「いかなる主張もすることができない」ということを規定しているわけでございます。そして、この三項の規定を受けまして、これも御承知のとおり、我が国におきましては昭和四十年に財産権の処理に関する国内法を制定いたしました、いわゆる法令上の根拠のある実体的な権利につきましては、韓国及び韓国国民が我が国において有するそういう財産権を消滅させる措置をとったわけでございます。ただ、この場合におきまして、そのような国内法上の根拠のない財産的価値を認められるいわゆる実体的権利というものではない請求権につきましては、この法律の対象になっていないわけでございます。

そこで、それではこのような意味の請求権は何かということになるわけでございますが、これはクレームとも言っておりますけれども、このような請求を提起する地位を意味すると考えております。いわゆる外交保護権の放棄でございますから、そのような個人がこのようなクレームを提起するということまでも妨げるものではない。したがいま

して、我が国の裁判所に訴えを提起するというようなことは、そこまでは妨げておらないという事でございます。

○伊東秀子 裁判において請求する権利、つまり請求権は消滅していないという結論だと思ふのですが、それで、韓国において首相は、補償の問題については裁判の行方を見守りたいということを両首脳会談の中でも発言しておられます。しかし、今問われているのは、日韓基本条約の締結の段階では、軍の関与は全くなかった、民間業者が勝手に連れ歩いてたのだという事実のもとに締結した条約であり、さらに新しい事実が出てきたときにその事実に基づいて宮澤総理は謝罪をした、その新しい事実に対しての一つの加害国としてその誠意をどうあらわすか、つまり道義的責任、政治的責任がこの問題では問われているのではなからうか、こう考えるわけでございます。

そこで、それに入る前に、まず現在の従軍慰安婦に関する軍の関与についての首相の認識をお伺いしたいと思います。

訪韓の段階では、軍が何らかの形で関与していたことは否定できないという大変消極的な事実認定のもとに謝罪なさったわけでございますが、その後、私は二月二日に四十七点の新しい従軍慰安婦に関する資料を入手いたしましたし、昨日さらに九点資料を入手いたしました。その入手し

た資料では、総理の訪韓前に見つかっていた五点の資料にはないものがいろいろ出てございますが、総理はそういった新しい資料に基づく内容を報告を受けているかどうか、さらに、その報告に基づいてどのような事実認識を持っておられるか、ちょっとお伺いいたします。

○宮澤内閣総理大臣 これは、官房長官を中心に各省庁がやっておりますので、官房長官から御報告をいたします。

○加藤官房長官 政府の方でも六省庁を中心に資料調査を鋭意やっております。幾つかの資料もまたこちらの方でも見つかっております。その状況につきましては、担当局長から報告させます。

○有馬政府委員（内閣官房内閣外政審議室長） 政府委員

御指摘、御示唆のような資料がその後も出てきておりますが、まさにこれらを踏まえて、総理が韓国に行かれます前に、我が国として、従軍慰安婦の募集や慰安所の経営等に旧日本軍が何らかの形で関与していたことは否定できないということを言われ、そのような認識が引き続きこれらの資料によって裏づけられているということだと存じております。

○伊東秀子 今の御答弁を聞きますと、何らかの形で関与したことは否定できないというこの事実認定、これは変わってないように聞こえるわけでございますね。

それでは、私は資料に基づいて、時間もございませんの

でこちらで事実を明らかにしたいと思うのですが、きょう委員長の許可を得まして事前にお配りしております資料を見ていただけたらと思うのですが、これは資料一というところを見ますと、昭和十九年五月に中山警備隊というところを出した軍人倶楽部の利用規定というものでございます。この第二条のところをごらんください。「第二軍人倶楽部ト称スルハ慰安所トス」と書いてございます。さらに第三条には、「部隊副官ハ軍人倶楽部ノ業務ヲ統轄監督指導シ円滑確實ナル運営ヲ為スモノトス」と書いております。さらに第四条には、「部隊附医官ハ軍人倶楽部ノ衛生施設及衛生施設ノ実施状況並ニ家族、稼業婦、使用人ノ保健、調理、献立等ノ衛生ニ関スル業務ヲ担任ス」となっております。第五条では、「部隊附主計官ハ軍人倶楽部ノ經理ニ関スル業務ヲ担任ス」、すべてこれを見ますとこの慰安所については軍が全面的に統括していたということが明らかになるわけでございます。

さらには付表がついておりまして、一番最後を見ていただきたいのですが、その利用時間表とか第二軍人倶楽部、つまり慰安所の料金表までついております。これを見ますと、将校と准士官と軍属、こういうふうに分けて、値段もさらには時間も軍で区別していたということがはっきり出

ているわけでございます。

さらには、第二番目の資料二というものををごらんいただきたいのですが、この資料二の二枚目の昭和十七年の三月十二日に台湾軍の司令官から陸軍大臣あての電報でございまして、この内容は、「ボルネオ・行き慰安士五人五〇名為シ得ル限り派遣方南方総軍ヨリ要求セルヲ以テ」、つまり台湾の慰安婦の方五十名、なし得る限り派遣してほしいということ Southern Army から要求された、だから陸軍省としてはその先に書いてある経営者三名の渡航を認可してくださいという申請の電報でございます。それで、資料二の最初のページに戻りますと、この電報に対して陸軍省の副官から台湾軍の参謀長あてに、先ほどの電報の件は認可しますという返電を打っているというものでございます。

これを見ましても、明らかに軍が陸軍全体で組織的にこの慰安所を設置し、派遣からさらには経営、慰安婦の方々の衛生の状態の管理、經理まで携わっていたということが明らかになるわけでございます。

三番目について申し上げますと、この資料二の三枚目の資料でございしますが、これは同じく昭和十七年六月十三日に台湾軍の参謀長から陸軍省の副官あてに出した電報でございまして、「ボルネオ・ニ派遣セル特種慰安婦五十名ニ関スル現地著後ノ実況人員不足シ稼業ニ堪ヘザル者等ヲ

生ズル為尚二十名増加ノ要アリトシ」というふうに書いてございます。つまり、五十名要求したから送ったけれども、足りないから二十名の増加の要求があった、それでその二十名についての増加の了承をしてください、こういった電文になっているわけでございます。

このように、これは伺いますと、首相が訪韓する前には多分首相はごらんになってなかったのではなからうかと思うわけでございますが、ここまで明らかに軍が組織的、計画的に慰安所を設置していたということが明らかになるわけでございますが、この点について首相はいかがお考えでございますでしょうか。新しい事実に関してでございます。

○宮澤内閣総理大臣 訪韓いたしました段階でこの具体的な事実を知っておったわけではございませんけれども、当時既に入手いたしました各種の資料、情報等々から、あの当時訪韓で申しました基本的な認識は持っております。したがって、この資料はそのことを一層いけば裏づけた資料でございますように思いますが、基本的な認識はあのときに既に間違いなく持っております。

○伊東秀子 当時から、このように軍が組織的に慰安所を設置していたということは認識していたということでございますでしょうか。

○宮澤内閣総理大臣 当時私が持っておりました認識は、

その当時日本政府がこのような従軍慰安婦の募集並びに慰安所の設営、経営に関して関与していたと考える理由がある、こういう認識でございますので、その認識は今日と大体同じでございます。

○伊東秀子 渡辺外務大臣にお尋ねするのですけれども、渡辺外務大臣は一月十四日の夜のテレビでこのような発言をなさっております。能動的な関与かどうかはわからない、慰安婦の数を数えたり慰安所設置を許可したりという関与かもしれない、それは調べてみないとわからないというような趣旨のことを発言しておられます。

つまり、この発言だと、あくまでも従動的な、募集にちょっと手をかしてあげたんだとか、そういった関与かもしれないというような発言のようなんです、新たな事実が出て、今私を読み上げました事実を見たら、これじゃ取り消さなきゃいけないと思うのですが、いかがでしょうか。

○渡辺外務大臣 一月の十三日の当時はわからなかったわけでございますが、そのような資料が出てまいりますと、それは軍が関与したと認めざるを得ないというように思います。



## 教科書に正しい記述を

吉川春子

一九九二（平成四）年四月一日（水）

第百二十三回国会参議院予算委員会会議録より抜粋

○吉川春子 防衛庁長官、第二次世界大戦の末期、大臣のふるさとの信州に松代の象山こう、これが掘られたわけですから、この目的とか内容、規模についてお教えいただきたいと思っています。

○宮下防衛庁長官 お尋ねの大本営及び政府中枢機関の移転のためのこうを掘ったわけでございますけれども、私も防衛庁の防衛研究所の保管する戦史資料がございますが、これによりまして、これは「戦史叢書」という中に書かれておりますが、いわゆる松代大本営の工事は松代倉庫工事と軍は呼ぶようになっておりますが、松代倉庫工事と称されて昭和十九年の秋に開始をされております。

当時、陸軍省が大本営と政府中枢機関の移転を考慮いたしまして現在の長野県の松代地区に、これは各種倉庫となっておりまして、いま申したとおりでございますが、この建設のために地下洞窟作業を実施していたものでございます。いわゆる松代大本営工事の規模につきましては、当時の戦史資料によりまして、いわゆる倉庫、これはコ工事と軍は正確には言っておった。倉庫工事の庫をとったと思い

ます。コ工事として四カ所、それから倉庫の内部施設としては間仕切り室等大小合わせて約六十室等の規模が示されております。その後、二十年に完成することなくこれは終戦を迎えたものでございます。

ここに原文もございますけれども、今申したのが大要でございまして、なお細部のいろいろ実施の方針とか要領とかございますが、そういう点について必要であれば政府委員からお答えさせていただきますが、問題の視点は、委員の御指摘の点は、今の質問にございませんでしたけれど、当該工事におきまして朝鮮人が強制連行されていたというような事実があるのではないかとという視点だと存じます。この点につきましては、防衛庁の防衛研究所で保管しているこの戦史資料に関する限りは出てまいっております。しかし、私、長野県でございまして、いろいろこの松代の朝鮮人の犠牲者の慰霊碑の建立の問題等ございまして、こうした文書も私の方に寄付依頼、募金依頼等もあります。ボランティアでそういう慰霊碑を建立しようということでございますが、そういう中には記述は一応されております。

（中略）

○吉川春子 これは私調べました。もう文化財のいかなる制度をもっとしても保存できないんです。そして日本政府

は戦争資料館あるいは記念碑あるいはさまざまな資料の保存というものを国の責任として一カ所もやっていないんです。これはゼロじゃないとおっしゃるんだったらぜひ答弁してほしいんですけれども、何にもやっていないんです。

それで私は、やはりこういう悲惨な歴史をとどめるためにも、松代象山こうは一例でございすけれども、こういうものについてやはり政府が財政的にもきちっと面倒を見て保存する必要があるんじゃないか、こういうふうにお伺いするわけですけれども、いかがでしょうか。文部大臣の御見解を伺います。

○鳩山文部大臣 先生、もう文化庁の方はおあきらめのよ様な様子でございましたから、よく理解をしていただいていると思いますが、要するに、史跡、名勝、天然記念物の中の史跡ということになるのでありましようが、史跡ということになりますと、新しくても史跡でいいということになれば日本中が史跡で埋まってしまうわけでありまうから文化財保護法としては、古墳、貝塚、城址などの遺跡で歴史上、学術上価値が高く重要なものを、そしてまた広く一般に認められて定着しているものの中から文部大臣が指定するということになっておりまして、最も新しいものがちようどこの明治の初めぐらいのものでありますから、その明治の初めぐらいから太平洋戦争までの年限が何年あるん

でしょうか、六十年あるんでしょうか、七十年あるんでしょうか、ですから二十一世紀の半ばぐらいになりますとそういう議論もできるかと思ひます。

○吉川春子 そういう質問の趣旨ではありませんで、私は、この痛ましい朝鮮人の強制連行、そういう証拠を、日本にとっては心痛むことだけでも、これを残すことがやはり本当に再び侵略戦争を起こさない上で必要だ、そういう観点から申し上げています。そして、朝鮮人の従軍慰安婦の方、名のり出ない方が多いと予想されますので、やはり再び侵略戦争を起こさない、このことが非常に重要ではないかというふうに思うわけです。

(中略)

○吉川春子 指導書の「進出」を「侵略」と書き改めるのはいつですか。

○坂元政府委員 (文部省初等中等教育局長) 指導書を書き改めるという考えは持っておりません。

戦争そのものをどういうふうに評価するかということについては、先ほど教科書について、教科書はほとんど中国への侵略戦争というふうに書いてあるわけでございますが、例えば列強も中国へ進出しているというような事実もあるわけですし、そういうものを含めて一般的に指導書では、「進出」というふうに書いているところでございます。

○鳩山文部大臣 その問題を深く議論しますと、結局、歴史という学問は何であるかということに私が言及しなければならなくなるわけなんです。

ですから、最近のこととして、アジアの近隣諸国に迷惑をかけたというふうに私も思いますよ。したがって、そういうような形で侵略戦争というような記述で教科書ができ上がってきたてもそれはきちんと教科書として通用しているわけでございますし。それは我が国が反省をしなればいけない点も多いと思いますが、歴史というものはそもそもいわゆる演繹的な学問ではないわけで帰納的な学問であるがゆえにそれぞれの国や地域によっておのずから取り上げる事実というものも違ってくるし見え方も違ふのは、これは当然のことだろうと思うわけです。

例えば、ローマ帝国がどういうことをしたかということも、当時の歴史だっているといろいろとローマの方々やヨーロッパの方々にとっては興味深いと思いますし、日本と朝鮮半島の歴史でも、それは高句麗の好太王のころはどうだったのか、白村江の戦いのときはどうだったのか、一二七四年の文永の役と一二八一年の弘安の役に元寇が責めてきたときに朝鮮の方々も一緒に日本を攻めたのではないか、あれは侵略だったのではないか、そういうところまでやっぱ議論しなければならぬということにもなりかねないと思

は思っておりますから、歴史というのは大変難しいが、しかし最近の近・現代史の教え方については国際協調、国際理解という観点で教えましようということで精いっぱい努力をいたしております。

○吉川春子 文部大臣も、侵略でなくて進出でよろしい、こういうことですか。

○鳩山文部大臣 いわゆる教科書をもとに授業が進められておりますが、中学校の歴史の教科書のすべてがいわゆる侵略的な事実を認めた書き方をしていることに対し私は何も異議を差し挟むような気持ちはありません。

○吉川春子 文部省が教科書を執筆しているんですか。

○鳩山文部大臣 よく聞いていただきました。

これは、日本は国定教科書ではありませんから著作者が書かれる、当然発行する会社といろいろと相談して書かれると思います。その中身について学習指導要領に基づいて、あるいは検定基準に基づいて検定をさせていただいている、こういうことでございます。

○吉川春子 文部省は書いていない、教科書は執筆者によって「侵略」と書かれているけれども、文部省のそれのものになる検定の基準ともなる指導書が「進出」になっている。それでいいのかということを知りたいです。

○鳩山文部大臣 少なくとも、侵略戦争であると書いてあ

る教科書を検定で不合格にはいたしておりません。

○吉川春子　そういう質問じゃないですよ。私時間がないんで困るんですよ。そんな時間稼ぎ。

○坂元政府委員　学習指導要領は検定の基準になりますが、指導書は直接検定の基準にはなっておりません。

○吉川春子　あくまでも文部省は侵略でなくて進出でいくと言っています。では外務大臣、日本は進出でよろしいんでしょうか、侵略じゃなくて。

○谷野政府委員（外務省アジア局長）　私から御答弁するわけでございますから、過去のお尋ねの件につきましての御議論、総理大臣の御答弁の内容を御説明いたしたいと思えます。

いろいろなことがございますが、最近の例におきましては、宮澤総理が予算委員会におきましてこのように述べておられます。「我が国が過去において、戦争を通じて近隣諸国等の国民に対し重大な損害を与えたのは事実であります。かかる我が国の過去の行為について、侵略的事実を否定することはできないと考えております。」という御答弁がございます。他方、過去におきましては、例えば宇野総理のときには、「軍国主義の侵略である。」とお述べになった御答弁例もございますし、海部総理におかれましては、太平洋戦争について侵略戦争であったという認識を総

理は有しておられるかという問いに対しましては、平成二年の予算委員会でございますが、私はそういう認識を持っておるという御答弁もございます。

いろいろな御答弁があるということを申し上げておきます。

○吉川春子　外務省も進出でいいんですね。

○谷野政府委員　私どもは、この問題につきましては総理が述べられておるところをそのように外務省としても考えておることだと思えます。

○吉川春子　文部大臣、じゃ確認します。侵略じゃなくて進出なんですね、日本がしたことは。

○鳩山文部大臣　私はそう申し上げているわけではありません。つまり、実際の教育というものは教科書に基づいて行われているわけでございますから、教科書にいわゆる侵略的事実という事柄がいろいろ書かれていることについて、例えば高校の歴史の教科書には既に従軍慰安婦について触れているのが一社ありますね。また女子、女子が入っていったかわかりませんが、挺身隊について触れているものもあるわけですね。私どもはそういうような教科書を認めているわけですから、そこからすべてを考えていただきたいと思えます。

私としては、この指導書の書き方を変えるつもりはあり



ません。

あえて解釈まで申し上げれば、この八十三ページにある「大陸への進出につながった」と書いてありますことは、その当時の歴史的な背景の中で、その日本の目もまた大陸の方へ行ったという非常に一般的な物事を書いてあるものと思っております。いろいろ大陸への利益というんでしょうか、利権というものもあったかもしれませんが、そういう日本の態度がその後の大きな戦争に結びついていったという前段階のことを書いている「進出」という言葉だと、私は文章からいえば理解しております。

○吉川春子 驚くべき答弁を文部省からいただきました。

最後に、私はもう一つ質問します。

日本の社会科教科書の侵略戦争に関する記述は、そういう文部省の態度からいっても当然少ないんです、諸外国に比べても。文部省も過去これについてはさまざまな干渉を行ってきました。従軍慰安婦問題を含む戦争責任問題は教科書の執筆者、現場教師の実践の自主性を最大限に尊重して干渉しない、そのことは約束できますか。

○鳩山文部大臣 教科書の検定の周期も長期化したしまし、もちろん今回学習指導要領に基づいて新しい教科書がつくられていくわけですが、我が国の教科書の編成の仕方、編成というか作成の仕方というものはいわば民間活力によ

っているわけでございまして、民間の方がお書きになる。もちろん学習指導要領に重きを置いて書いていただいて、それに照らしてでき上がったものを私どもが検定するということです。から、いわば中身の大きさについては民間の発意のような部分があるわけであります。

したがって、先ほども申し上げましたように、例えば総理がいろいろ演説された事柄とか、あるいは時の話題とか例えば盧泰愚大統領が日本にお見えになって日韓友好というような機運が高まりますと当然それらの記述が自然に多くなるとか、そういう傾向はあるわけで、それらについてはそういうものかというので文部省は検定をさせていたでいていいるという事情があります。教科書はそのような形で時代とともに変化することは十二分にあり得ると思います。

○吉川春子 大臣、端的に簡潔な御答弁で結構でございますが、今後、日本の侵略戦争についてあるいは朝鮮人従軍慰安婦について、教科書の中にも、今は一社ですけれども多数登場するのでありましようし、現場の教師たちもこれを使って実践すると思います。そういうことについて、文部省は干渉しない、その自主性を尊重するという一言をおっしゃってください。

○鳩山文部大臣 それはそのとき判断をすることでございます。

○吉川春子 不十分ですが、終わります。

## 「収益事業」としての軍の管理を追求 清水澄子

一九九二（平成四）年四月八日（水）

第二百二十三回国会参議院予算委員会会議録より抜粋

○清水澄子 アメリカ、カナダの日系人強制収容に対する謝罪と補償はどのような方法で個々人に対して行われたのか、説明いただきたいと思います。

○佐藤政府委員（環境庁自然保護局長） これはアメリカ及びカナダそれぞれの国の事情に基づいたことでございまして、事実関係だけ簡単に申し上げますが、アメリカにつきましては、いろいろ経緯がございましたけれども、強制移転収容された日系米人、日系永住者に対して議会が謝罪をいたしました、そして一人当たり二万ドルの補償金を支給するというようにいたしております。

カナダにつきましては、これは政府が不公正な取り扱い、人権侵害ということを認めまして、一人当たり二万一千カナドルを支給するというになっております。

○清水澄子 個々人にどういふような手渡し方がされましたか。

○佐藤政府委員 外国のことですので我々それまで詳しくは承知しておりませんが、アメリカについては、一人一人に小切手を出して、それとともにブッシュ大統領からのメッセージが添えられていると聞いております。カナダについては詳しく承知しておりません。

○清水澄子 これが日本の外務省ですね。驚きました。アメリカもちゃんと大使館に、こちらに来て、そして日本の国内に申請をしてくださいということであるような広告を出しましたし、カナダなんかは日本の国内の九カ所に、ホテルに申請する場所を設置して、そして広告まで出しているわけです。そして一人一人にちゃんとアメリカの場合はブッシュ大統領の手紙をつけ、カナダもマルルーニ首相のサインの入った手紙をつけているわけです。

その中にははっきり、金額や言葉だけで失われた年月を取り戻して痛みを伴う記憶をいやすことはできません、しかし、道徳的な意味だけでなく実体的な方法でこの問題を処理することが我々の決意を象徴していますからどうぞ受け取ってください、そういうふうにアメリカもカナダもみずからの行為の誤りを認めて、そしてそれぞれ個人に対して誠実に手渡ししていくというそういう対応をされております。

ですから、そういうことは外国のことだからわかりませ

ん、こういう言葉で、これが外務省の姿勢でよろしいでしょうか。

○佐藤政府委員 私が生上げましたのは基本的に米国民、もちろん日系人、永住者も入っておりますが、基本的に米国の政府あるいは米国民が米国民に対して、またカナダがカナダの日系人及び永住者に対して行ったことでございますので、我々として余り有権的にいろいろなことをここで御説明する立場にはないということでございます。

○清水澄子 人間の誠意と配慮のないところに人権尊重はありません。そしてまた戦後補償というのはそういう配慮と誠意が必要なのです。そういう中で、皆さんのところに行っているかどうか知りませんが、日本が台湾人に元日本兵の弔慰金支給で出されたこの書類と、その一つ一つに謝罪をつけブッシュ大統領やカナダ首相のサインをつけて皆様方にどうぞ私たちの誠意を受け取ってくださいというそういう文書を見たとき、こういうことは外国のことだからいいんですか、そういう台湾の人たちに。ただこれは一枚の通告でしょう。お金を払うようになりました。こういうところに非常に戦後補償とかこういう問題についての配慮と謙虚さが足りない、ここをどう直していくかというところで、人権という問題を大切にする日本の姿勢をやはりつくり直す必要があるということで私は主張している

わけですが、これでもまだ外務省はそんなことは勝手だとおっしゃるんですか。（「日系人はアメリカ人なんだ」と叫ぶ者あり）

（中略）

○清水澄子 最近、元慰安婦の文玉珠さんがビルマやタイの前線で軍事郵便の貯金をしたと、その払い戻しのために来日しましたけれども、これは日本の国内法で措置された権利の消滅のもとで結局払い戻しは拒否されたわけです。そうなりますと、文玉珠さんという方は戦争犠牲者の上にもう一つ日韓請求権協定の二重の犠牲者になるわけです。

郵政大臣は、本来ならばあくまで預金者保護の原則に基づいて行政をやる、その権利を保護しなきゃならない立場だと思えますし、先ほどのお答えの中で払い戻しのために特別の措置はとらなかったということもお聞きしましたけれども、金額もそんなに多くないはずですよ。せめてそういう方々の払い戻しに応ずるという、預金者保護の原則を何とか守ろうというそういうお立場はございませんでしょうか。

○渡辺郵政大臣 お答え申し上げます。

さきの戦争で大変な辛酸をなめられた元従軍慰安婦の皆様方の心の痛みは察するに余りあるものがございます。

ただしかし、韓国の方が申し出た軍事郵便貯金に対する

権利の問題というのは、郵政省としましては昭和四十年に締結されましたいわゆる日韓協定及び関係法律に沿って対処せざるを得ないのでございまして、これは先ほど来からいろいろ議論の出ているところでございますが、郵政省としてもその域を出ることはできない。御理解をいただきますと思います。

○清水澄子　今までにもいっぱいいろんな人たちの人権が非常に侵害されているということが出ていると思うんですけども、これらは今後やはりどうしてももう一度検討しなければならぬ問題ではないかと思えます。

次に、実はここに昭和十九年、一九四四年に満州の石門子一〇一三部隊というのが使用した慰安券のつづりが出てまいりました。

これには泊まりだとか、それから兵士、それから下士官、みんなこういうふうに部隊のところに全部こういう券がガリで切つてあるわけです。そしてさらに、初めて見ましたけれども、慰安券のつづりと、日曜日ごとに四十人、五十人のうちに十二、三人ずつに配られた現地の駐屯地司令官発行の特別売銭税免除票というのがある。もとの軍人から私に届けられました。

この免除票を持っていきますと、慰安所の料金が一円五十銭が一円になる。つまり三〇％割り引きになるというこ

となんです。これを見ますと、軍は慰安所の経営に關与していただけではなくて、税額をそれぞれ決めて慰安所業者から特別売銭税の名目で税を徴収して軍の經理に収入として入れていたのではないか、こういうことがだんだんいろんな資料から明らかになってきているわけです。そういうことになりますと、中国で陸軍がアヘン取引を行っていたということと同じように、軍のアルバイトとして積極的に慰安所の設置に力を入れていたのではないか。言いかえますと、軍の慰安所の設置目的が兵の性的慰安や軍の規律維持とあわせて軍の独自の財源を得るための慰安所の設置推進であった、こういうふうに見えるわけですけれども、これ、大臣どうぞお答えください。大臣、居眠りをやめてください。

○有馬政府委員　御推察の目的があつたかどうかということとは、御指摘の資料からは何とも申せません。

○清水澄子　大事な問題ですので、本当に大臣居眠りしないでください。

それで、今の、だからいかに調査というのがいいかげんかというのがわかるんです。これはやはり政府からいただきました防衛庁の、軍の呂集團特務部ですね、それからナンバー五十八番ですけれども、この中を見ますと、アヘン吸引所の設置も慰安所の設置も税金もみな書いてあります。

この間からずっとこういう書類の中に、公文書の中に税と  
いうことが出てくるので何のことかなと思っていたんです  
が、ようやくこれで慰安所が、これは軍が自分たちの財源  
を得るためにこれを必要として拡大していたということが  
が考えられるわけですけれども、この真相の調査を私は要  
求したいと思いますが、それをお約束ください。

○有馬政府委員 御指摘の目的で税が徴収されていたとい  
うことを示唆する資料はございません。

○清水澄子 調査を私は要求しているわけです。

○有馬政府委員 いわゆる従軍慰安婦問題に関連いたしま  
す資料は、政府で関係があり得たと考えられるところに依  
頼いたしまして、網羅的に調査をいたしております。現在  
までのところ、御推察のごとき、御示唆のごとき目的を示  
すような資料はなくて、今後もしも出てまいりましたらば  
もちろんでございますけれども、御指摘のことも含みとし  
て調査は進めてまいります。

○清水澄子 真相の究明を私は要求いたします。

(中略)

○清水澄子 いろいろ御説明あったのは韓国国内法であ  
って、日韓条約の請求権協定と何も法的にはリンクしてな  
いということであるわけです。ですから、最後におっし  
やったように、日韓条約というのはあくまで、経済協力協

定であって、そして韓国国民の個人一人一人の請求権や補  
償をしたものではないということが、ここで明らかになっ  
てきていると思います。

そして、その無償有償五億ドルの中で何かしたんだらう  
と。でも、それは韓国の中であって、これは、この日韓条  
約には経済協力と請求権問題解決との関連性においては法  
理論的に全然整合性がありません。そして韓国の中では、  
例えば無償三億ドル、千八十億円のうち民間人に支払われ  
た金額というのは、これは何も日韓条約で約束しているわ  
けじゃないんですが、韓国の国内でとった措置の中で無償  
三億ドル、千八十億円の中から支払われた金額というのは  
五十八億円なんですね。ですから、全体のたった五・四％  
しか個々人のところに行っていない。しかも、それは死ん  
だ人だけ、八千五百五十二人にだけ支払われたわけです。  
ですから、これが今日韓国の国民、特に当時の政権とい  
うのは余り民主的、民主化はありませんでしたから、韓国の  
国民はほとんどこれらについて納得をしていない。こうい  
う問題が今日起きてきていると思います。

私は、ここで最後に大臣にお伺いしたいんです。このこ  
とは、結局日本が主体的に法の谷間に落ち込んでいる人々  
それから過去の植民地支配や戦争の不正とか迫害によって  
傷つけられた人々、そういう人たちに對してどういう責任

をも果たしていくのかということは、何も日韓条約が障害にはなりません。日本が主体的にやっていけば、これらの問題は解決していけると私は思います。

特に、ぜひお願いしたいと思いますのは、最近慰安婦であつたと名のり出た方々、こういう人たちは儒教の非常に影響の強い韓国の社会で名のりということは大変な勇気が必要だつたでしょう。こういう人たちに何もしないということとは、再び彼女たちの人間としての尊厳を傷つけることになります。ですから、非常に具体的な解決には時間がかかるのであれば、こういう名のり出た人たちにだけにでも、人道上の立場から政治的な解決をしていくための第一歩として、何らかの私は誠意を持った暫定的な措置をとっていただきたい。このことをお願いしたいわけですけれども、ぜひ外務大臣の私は御決断をお願いしたいと思います。

外務大臣、ひとつお答えください。

○渡辺外務大臣 これは人情論とかそういうことから言えば、まことにお気の毒で忍びがたいものがございますが、これは一つの例でありまして、他にも戦争というものは多くの犯罪的な行為を伴っていることがあるわけであります。まことに残念ながら、それは事実でございます。

したがって、だからといって政府はそれらの個々の人に全部償いができるかということになれば、それは不可能で

あります。日中問題についても同様、その他の日本が侵略的な戦争をしたと思われる国についても同様でございます。これはそういう点でどこかで線を引かなければならぬわけでございますから、やはりそれは国と国との間の取り決め事によって決着する以外には国として方法がありません。しかし、今言つたように、現実の政治問題になつていふということも事実だし、人道問題になつていふことも事実でございますから、それについては何らかのことはしなきゃならぬと考えておりますが、個人個人に対してどうこうすることは考えておりません。

## へあいらく

### 二十周年のつどい — 秋

テーマは「おもしろフェミニズム」。企画・参加者大募集。ふるって応募を……迷案には目の玉が飛び出ない賞金あり!!

# 資料

## 資料 国会で明らかにされた国家の「慰安婦」関与に関する資料

### 1、軍人倶楽部利用規定（伊東秀子氏資料1）

昭和十九年五月に中山警備隊が出したものの。食堂を「第一」、慰安所を「第二」として、共に「軍人倶楽部」と称していたことを示す。規定第二、三、四、五条により、軍が全面的に統括していたことが明瞭に証明できる。また利用時間表を見ると、階級によって利用時間が分かれ、兵は休日以外は利用できないことがわかる。料金表は、利用時間及び階級によって料金が異なっていたことが示されている。

### 2、台湾軍司令官と陸軍大臣の間で交わされた通信（伊東秀子氏資料2）

☆三月十二日の「台電第六〇二号」は、ボルネオ行き「慰安土人」五〇名を南方総軍から要求されたので、憲兵が調査の結果選定した三名の業者の渡航許可を申請した電報。業者の二名は日本人（愛媛県人と高知県人）、一名は当時「半島人」と称された朝鮮半島出身者であることがわかる。「土人」は、原住民、当時のいわゆる「高砂族」と思われるが、現実に高砂族を徴用したのかどうかは不明。

☆三月十六日の「陸亞密電一八八」は、それを認可したという電報。

☆六月十三日の「台電九三三三号」は、前記電報によって用意した特種慰安婦五〇名の中には、稼業にたえない者もあり、不足しているので二〇名増派の必要があると、業者が台湾に帰って来た、増派を認めてほしい。なお、今後、この種の少人数の補充や交代の必要を生じる場合は、適宜処理したいので、あらかじめ承してほしい、という内容。台湾軍参謀長から陸軍省に送られている。以上いずれも、軍が組織的、計画的に慰安所を設置し、その最終責任は陸軍省にあったことを物語る。

3、昭和十八年一月一日〜三十一日と、二月一日〜二十八日の、南京第十五師団軍医部の衛生業務要報からの、「特種慰安婦検診状況」の抜粋（伊東秀子氏資料3）

☆軍医が検診を行っていたことが明瞭。検査対象は、内地人、半島人、中国人に三分されている。この資料では人数は日本人が最も多く、中国人は日本人の約八〜九割、半島人は二割弱であったことがわかる。



#### 4、イロイロ派遣憲兵隊所収報告書抜粋

☆昭和十七年五月十二日と十九日、フィリピン、イロイロ患者療養所からイロイロ憲兵隊にあてた第一慰安所検微成績（梅毒検査の結果）の報告書。被検査者姓名（墨で抹消してある）を見ると、すべてフィリピン人ではないかと推察される。

☆一月の検診では、七人中一人、二月には十二人中一人が陰部ビランで営業不可となっているが、一月と二月は同一人物。月経（生理）中の者も、不可の部に入られている。

（以上1〜4は、防衛庁防衛研修所戦史部に保存されていたもの）

#### 5、慰安券の綴り（清水澄子氏資料1）

昭和十九年（一九四四年）満州石門子一〇一三部隊が使用していたもの。ワラ半紙に粗末なガリ版刷り。この大きさが原寸。

#### 6、特別売銭税免除票（清水澄子氏・資料1）

前記部隊で使用されていたもの。この免除票を持って行くと、慰安所の料金一円五〇銭が一円となり、五〇銭安、約三割引きになった。

#### 7、南昌市政府備處に於ける案戸公娼の取締および營業稅徵收暫行規定（清水澄子氏・資料2）

旧陸軍が「慰安所」経営業者と「慰安婦」から「免許費」「營業費」「特別売銭税」を徴収していたことがわかる。日本軍は、「現地人の強姦」「性病防止」を口実にしたが、独自の機密費財源確保のためにも「慰安所」の設置を推進していたのではないかと推測される。

#### 8、石兵団会報五四号、五八号（清水澄子氏資料3）

沖縄県北部、仲間の慰安所の価格表。売上には十二割の税が含まれていたこと、業者は、「慰安婦」が納入した税金を貯金し、適宜納入していたことがわかる。（5〜8は「従軍慰安婦」明石書店刊の著者、西野留美子さんが、七十八歳の元日本兵（関東在住）から入手したもの）

#### 9、慰安所月間營業報告書用紙

一九四五年十一月十五日、米軍の調査報告に収録された日本軍文書の一つ。「慰安所」はこのような營業報告書を提出していた。完全な「軍営」で、収支報告まで提出させていたことがわかる。

資料 1 軍人俱樂部利用規定

昭和十九年五月

## 軍人俱樂部利用規定

中山警備隊

## 第一章 總 則

第一條 本規定は軍人俱樂部利用ニ関シ必要ナル事項ヲ規定ス

第二條 本規定中第一軍人俱樂部ト稱スルハ食堂

ヲ第二軍人俱樂部ト稱スルハ慰安所トス

第三條 部隊副官、軍人俱樂部、業務ヲ統轄

監督指導シ円滑確実ナル運営ヲ為スル

トス

第四條 部隊副官ハ軍人俱樂部、衛生施設及

衛生施設、實施狀況並ニ家族稼業婦  
使用人、保健、調理、獸之等、衛生ニ関ス  
ル業、教育、組織ス

第五條 部、課、附主計官、軍人俱樂部、經理ニ関  
スル業、教育ヲ担任ス

第六條 第二軍人俱樂部、利用之令並ニ料金表  
別紙、如シ

## 第二章 第一軍人俱樂部

第七條 第一軍人俱樂部ニ於ケル飲食物ハ該營業  
主、調理セルモ、及酒、藥品ニ限ル

第八條 在、者ハ軍人俱樂部、利用ヲ禁ス  
ノ所是、服裝ヲナセル者

第九條 條以外、飲食物ヲ携行セル者  
他人ニ迷惑ヲ及ボス者

第十條 第一軍人俱樂部ニ於テ宴會又ハ會食ヲ  
行ハントスルトキハ前日迄ニ副官ニ通報シテ  
營業主ニ交渉スルモノトス

第十一條 第二軍人俱樂部ニ於テ利用者器物ヲ破

第百條 指ニル場合ハ正當、價格ヲ支辨スルモノトス  
 第百條 第一軍人俱樂部ヨリ部隊其、他、場所ニ

飲食物、搬出餘仲婦、出ルヲ要求スルコトヲ許サズ、但シ宴會其、他、理由ニヨリ之ヲ廢サシムル者ハ豫メ警備隊長、許可ヲ受ケルモノトス

第百條 第一軍人俱樂部、營業時間ハ一〇〇ヨリ二四〇〇ニ間トス

### 第三章 第二軍人俱樂部

第百條 第二軍人俱樂部ニ於テ飲食ハトシテ許サズ  
 第百條 料金ハ現金先拂トス

第百條 妓女、出花ハ原則トシテ之ヲ許サズ

第百條 短記ノ者ハ第二軍人俱樂部、利用ヲ禁ズ

ノ所定時間以外ニ利用セズル者

ノ所定、服装、湯サ、ル者

ノ者ハ酒氣ヲ帶ビタル者

ノ他ニ迷惑ヲ及ボス惧レタル者

ノ第十七條以外、有、及之ヲ同律セタル者

第百條 軍人俱樂部、利用ハ軍人軍屬ニ限ル但シ第一軍人俱樂部、ミ將校、同伴セル場合

六地方人、雖云之ヲ許可ス

第 四 章 雜 件

第六條 利用者ハ防諜ニ関シテ 餉心ノ注意ヲ拂フヘシ

第九條 利用者、營業主、妓婦施設其、他障礙

樂部ニ関シ不當ナルコト見出セハ部僚副官

二 通報 〓 元々、ト、ク

第二條 利用者ニテ承規定ヲ遵守セサル者ハ直ニ利用ヲ禁止スルト共ニ爾後外出ヲ禁ス

|              |  |       |  |
|--------------|--|-------|--|
| 第二單人俱藥部利用時間表 |  | 利利用時間 |  |
| 至一五三         |  | 至一五三  |  |
| 自一六〇         |  | 自一六〇  |  |
| 二〇五以修        |  | 二〇五以修 |  |
| 將收派工完        |  | 將收派工完 |  |

| 第二軍人俱樂部料金表 |  |  |  |  |      |  |  |  |  |
|------------|--|--|--|--|------|--|--|--|--|
| 附          |  |  |  |  | 料金   |  |  |  |  |
| 敵          |  |  |  |  | 敵    |  |  |  |  |
| 三          |  |  |  |  | 三    |  |  |  |  |
| 命在切        |  |  |  |  | 命在切  |  |  |  |  |
| 一          |  |  |  |  | 一    |  |  |  |  |
| 附同江切       |  |  |  |  | 附同江切 |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  | 二    |  |  |  |  |
| 二          |  |  |  |  |      |  |  |  |  |

備考 本料金八儲備券拂上ス

新町二六 四十二歳 朝鮮全羅南道清  
州島 台北州基隆市義重町四ノ五  
三十五歳 富知縣長西郡 高  
雄州潮州郡 潮州街二六七 五十歳 終



昭和三十三年三月

秘電報譯六月三日午前發後二時一五分發

發信地

分發

收發號碼 32

福川

名電

第九三五號

宮宛

發信者名 灣軍參謀長

本年三月名電第六。二號申請陸軍空電第一八八號

認可。他に「ボルネオ」派遣せる特種慰安婦五十名

關心。現地着後、實況人員不足、稼業に堪へざる者

等を生ずる爲め、尚二十名増加、要アリト左記引率四

部隊發給、呼奇認可證ヲ携行歸るセリ事實止

ヲ得サルモノト認メラルニ付、慰安婦二十名増派認可

相文渡

尚將來此、種少數、補充交代増員等必要ヲ生ズ

心場合ニ右ノ如ク適宜處理シ度豫メ諒承アリ度

左記

基隆市日新町二六

終

叙





|   |   |
|---|---|
| 三 | 田 |
| 田 | 田 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 保 | 王 | 王 |
| 土 | 田 | 田 |

|                     |          |          |           |      |
|---------------------|----------|----------|-----------|------|
| 山鹿第一〇號              | 癩綴成績ノ汗通教 | 昭和七年五月二日 | シロノ子患者療養所 | ⑫    |
| 第一點文所本日ノ癩綴成績化記通ノ通報ノ | 記        | 被検査者姓名   | 癩查成績      | 病名   |
| カシ、カシ               | 可        | カシ、カシ、カシ | 可         |      |
| カシ、カシ、カシ            | 可        | カシ、カシ、カシ | 可         |      |
| カシ、カシ、カシ            | 可        | カシ、カシ、カシ | 可         |      |
| カシ、カシ、カシ            | 可        | カシ、カシ、カシ | 可         |      |
| カシ、カシ、カシ            | 可        | カシ、カシ、カシ | 可         |      |
| カシ、カシ、カシ            | 不可       | カシ、カシ、カシ | 不可        | 癩平癩爛 |

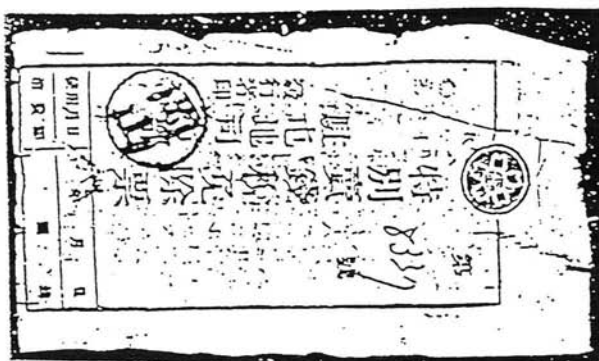
[illegible]

資料 5 慰安券の綴り

|  |                               |                               |          |
|--|-------------------------------|-------------------------------|----------|
|  |                               |                               |          |
|  | <p>券<br/>安<br/>慰</p> <p>①</p> | <p>券<br/>安<br/>慰</p> <p>②</p> | <p>券</p> |
|  | <p>券<br/>安<br/>慰</p> <p>①</p> | <p>券<br/>安<br/>慰</p> <p>②</p> | <p>券</p> |
|  | <p>券<br/>安<br/>慰</p> <p>①</p> | <p>券<br/>安<br/>慰</p> <p>②</p> | <p>券</p> |

資料 6 特別売銭税免除票

表



裏



## 資料7 南州市政府 備處に於ける寒戸公娼の取締および営業税徴収

## 暫行規定(清水澄子氏資料3)

第四条 寒戸は毎月営業税を治める以外免許証を三ヶ月毎に更換し免許費及び手数料は左記の三種に分く

甲種は免許費 二円 毎月営業税 一七円  
乙種は免許費 一円 毎月営業税 一〇円  
丙種は免許費 五〇銭 毎月営業税 七円

第九条 公娼は一、二、三種に分け、各種樂言において営業し、毎月営業税を治める以外免許証を領有し三ヶ月毎に交換し免許費及び営業税の一回分は左の如し

一種、免許費 一円 毎月営業税 五円  
二種、免許費 八〇銭 毎月営業税 四円  
三種、免許費 六〇銭 毎月営業税 三円

第十五条 出局娼妓は必ず局票を携帯、支局票は一枚に付き二〇銭として本處營業科より購入す

呂集岡特務部月報 昭和十五年四月七号(陸軍省陸支密大日記第六号より)

## 資料8 慰安所価格表・税額表(清水澄子氏資料3)

慰安所の価格は、左の如く暫定する。

一時間 二十時以降翌日朝迄

兵 四、〇〇 将校 一五、〇〇

下士官 五、〇〇 佐官 二〇、〇〇

将校 六、〇〇

本価格には十二割の税を含む。

(石兵団会報 第五十四号 昭和十九年九月十四日 沖縄県北部・仲間)

一、税金額は營業者をして貯金の方にて保存せしめ他日税額の決定の折りは適宜の処置を取り得る如くすること。

(石兵団会報 五十八号 昭和十九年九月二十日 仲間)

# 資料 9 慰安所月間営業報告書用紙

| 月間営業報告書<br>(第一部)                                                                                                 |       |        |     |                                                 | 施設番号  |    | 印 |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------|-----|-------------------------------------------------|-------|----|---|--|
|                                                                                                                  |       |        |     |                                                 | 責任者氏名 |    |   |  |
| 経費                                                                                                               |       |        | 収入  |                                                 |       | 摘要 |   |  |
| 区分                                                                                                               | 金額    | 本月売り上げ | 金額  | 営業経費<br>には直接<br>の経費のみ<br>として、購<br>入品は含ま<br>れない。 |       |    |   |  |
| 人                                                                                                                | 増減    | 計      |     |                                                 |       |    |   |  |
| 本月収入                                                                                                             |       | 損益     |     |                                                 |       |    |   |  |
| 金                                                                                                                |       | 損失     |     |                                                 |       |    |   |  |
| 計                                                                                                                |       |        |     |                                                 |       |    |   |  |
| 営業経費                                                                                                             |       |        |     |                                                 |       |    |   |  |
| 総利益                                                                                                              |       |        |     |                                                 |       |    |   |  |
| 総計                                                                                                               |       |        |     |                                                 |       |    |   |  |
| 区分                                                                                                               | 名前    | 金額     | 摘要  | 名前                                              | 金額    | 摘要 |   |  |
| 営業経費<br>内訳                                                                                                       |       |        |     |                                                 |       |    |   |  |
|                                                                                                                  |       |        |     |                                                 |       |    |   |  |
|                                                                                                                  |       |        | 計   |                                                 |       | 総計 |   |  |
| <div> <div>(第二部)</div> <div>慰安所月報</div> <div>月 売り上げ報告</div> <div>慰安所名</div> <div>経営者氏名</div> <div>印</div> </div> |       |        |     |                                                 |       |    |   |  |
| 署名名                                                                                                              | 総売り上げ | 営業取り分  | 前借金 | 前借金繰上                                           | 貯金    | 摘要 |   |  |
|                                                                                                                  |       |        |     |                                                 |       |    |   |  |

## PKO協法案に反対し、真の国際貢献を求める声明

### ●国民的論議をぬきにした審議

国連平和維持活動（PKO）協法案は、昨年の臨時国会衆議院国際平和協力特別委員会で強行採決され、衆議院本会議で可決されました。その後、法案は今国会に持ち越され、現在、政府自民党は参議院国際平和協力特別委員会の成立を押し通そうとしています。

私たちは、これらの重大なうごきが国民的な議論を抜きにして、短期間で決められようとしていることに強い不安と憤りを覚えます。

### ●戦争の反省にたつてこそ

かつての戦争から47年の月日が経ちました。しかし現在でさえ、アジア各国からは、日本の侵略戦争の深い傷跡が次々とあらわにされ、従軍慰安婦への補償など新たな問題が浮上しています。

私たちは、再度アジアへの加害者として責任を自覚しなければなりません。そして、そのためにこそ、日本国憲法の「武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」という崇高な精神を世界に広げ、二度と自衛隊を海外に送らないという国会決議を何よりも重視しなければならないと考えます。

### ●憲法の精神をふみにじるPKO法案

ところが、政府は「国際貢献」を名目に憲法の理念をふみにじり、自衛隊の海外派遣をめざすPKO協法案を成立させようとしています。これは、これまでの日本の進路を大きく誤った方向に変えようとするものであり、これに対し国民世論ばかりでなく、アジア各国からも批判の声が続出しています。

### ●真の国際貢献は非軍事分野で

私たちは改めて自衛隊の海外派遣につながるPKO協法案に反対します。

そして国際貢献とは、国内の世論やアジア各国に支持され、国際的にも理解される活動でなければならないと考えます。それは、自衛隊の海外派遣ではなく、医療、教育、科学、技術、災害救助、環境保全などの分野で、人的、物的、経済的、技術的に協力する体制をつくりあげることでであると訴えます。

### 〈PKO法案に反対し、真の国際貢献を考える会〉

あごら・日本キリスト教婦人矯風会・東京キリスト教女子青年会・日本キリスト教女子青年会・主婦連合会・東京都地域消費者団体連絡会・東京都地域婦人団体連盟・日本青年団協議会・草の実会・理想選挙推進市民の会・日本山妙法寺・日本消費者連盟・婦人国際平和自由連盟日本支部・不戦兵士の会・日本婦人有権者同盟・日本キリスト教協議会婦人委員会・日本キリスト教協議会平和／核問題委員会・日本生活協同組合連合会

仙波朋子

過日、やっぱり女記者をやっている友達が電話で言った。記者連中でスナックに行くと、店の女の人たちは女記者にはちょっとトゲトゲしいという。

「おお、わかるような気がする」と答えて笑い合ったが、その後で少ししんみりした。今の世の中、私たちのような存在はやっぱりまだ異端なのである。

昭和六十三年春、つまり「均等法初期の時代」に地方の新聞社に入社した私は、ある意味で男にも女にも属せないコウモリ的な異端児であり続けてきたと思う。

入社してしばらく、取材先で出されるお茶についてひとしきり悩んだ時期がある。取材先でたいてい、話を聞くのは男性。そして、お茶をくんでくれるのは女性だ。彼女たちは職場で徹底的にサポート役を決められていて、時には私より相当年上の、いわば社会人として、大先輩にあたる人だったりする。「なんでこんな年下の女のこに……」とまではいかないにしても複雑な気分だろうな、と思うと、ひそかに心苦しかった。今は割り切って考えるようになったが、社会が気まぐれに「女性はサポート役でいい」「いや、やはり男女平等だ。頑張ってもらわなきゃ困るんだよ、ははは……」と主張を変えてきた、そのことに振り回される苦痛を、私はお茶の味に初めて感じたと言っている。

お茶くみ、コピーとり、男性の雑務処理が仕事だった女友達は、「私はこんなことしかできないから、うらやましいわ」と笑った。けれど彼女が結婚退職して専業主婦になった時、私は彼女がねたましかった。私の大脳にはやっぱり「女の幸せは結婚だ」という価値観がしっかりプリントされていて、「この野郎」とか言いながら（本当は言っていないと思



うけど)汚い服装(これも個人差はあると思うけど)でドタドタ走りまわっている自分は「いったい何者だあ!!」と怒り半分、悲しき半分の気持ちを味わった。会社は「女の感性を生かして仕事をしてほしい」と言った。そんなモン、この世にあるのか!? と本気で怒った。「女はさあ、やっぱり愛されて嫁さんになってさあ……」と酔って説教する男記者に腹が立った。あくまで必要にせまられて、女性蔑視を怒ってきたつもりだった。けれど気分の根っこのところで、私は「女」に縛られて悩んだ。「男みたい」な「自分がいやだった。何のことはない、私は女にも男にも属せない宙ぶらりんな存在になってしまっているだけなんだ。そう思うと、正直、落ち込んだ」。

今は多少、その落ち込みから回復しつつある。宙ぶらりんなコウモリ的存在というのは、逆に考えればそれだけ自由だと思いついたからだ。しかし、こう思うようになるまでに、何と時間がかかったことよと驚いている。

ところで今、わが社も「均等法以後」で入社してきた女性記者は相当、増えてきた。その中でかなりの者が二十代後半という微妙な年齢を迎え始めている。結婚、家庭、将来の昇進問題は……と悩む時期。たぶん遠くない将来、女記者自身、会社自身、大きな岐路に立たされると思う。私もたぶん、逃げられない。

そんなことをぼんやりと思いつながら、今はただ自分の取材の下手ぶりに苦しんでいる。岐路の前で表面的には余り悩みもなく過す初夏である。

(愛媛新聞記者)

女と戦争

あこら24号

BOC出版部

へあこらへは二十周年を迎えるという私のような新参者には、その過程の苦勞も楽しみもどちらも語れない。それでも、出ては消え、現れてはまたたき間にうたかたの夢と化す、メディア世界の無常を見るだけで、この二十年の大変さがしのばれる。バックナンバーを一号から並べただけで、その心意気が伝わってくる。

『女が働くこと』『女性の進出のために』『主婦の解放をめぐる』『何かしたい主婦のために』『子殺しを考える』『働く女と主婦の接点を求めて』『女と法』『女と教育』等々。どれも切実な女の時事を扱いながら、今に新しい。中でも私にとって忘れられない

のは、24号『女と戦争』だ。隅から隅まで、食い入るように読んだ。ケンタッキーで日本語に飢えていたのもある。出発前の湯島のオリエンテーション会場に足を運んで下さった斎藤千代さんの、ほんわかとろけるような可愛い笑顔の底にこんなにも激しい戦争への哀しみと怒りが裏打ちされている。「三十六年余、私の中に巣くっている戦争の大きさを改めて知りました」とご自身言われるように、そしてまた「大勢の人びとが知らないうちに戦争への道は見事に敷かれ、気がついたときには、とりもち」にからめとられたように、みんな身動きができなくなっていた」のも、我々一人一人が自分のこととして捉えなければならぬ恐ろしい問題だと思ふ。

異郷の地で、貿易摩擦に揺れる米国

で、ヒロシマを日本文化を若い世代に語りかけながら、この『女と戦争』は大切な私の一冊だった。

募集期間が短かったのに百五十編も集まったという手記「私と戦争」もテイチン『女と戦争』も、それぞれに重たい。散文詩「従軍看護婦と従軍慰安婦」と、そこに添えられた浜田知明氏の版画。ショックだった。体の震えが止まらなかった。正に「数千数万語を費やすよりも戦争を物語る！」と思えた。乞！再読・再々読!!(奥川)

372ページ 1300円

幻の塔

ハウスキーパー熊沢光子の場合

山下智恵子著

BOC出版部

淡々とした筆致。激情を押さえた抑制。それでいて味わい深い情感に満ちている。ケバイ極彩色に毒され慣らされ鈍った我々の目にも、何と無駄のな

い言葉とシーン。セピア色の哀感こもった珠玉のモノクロ名画を見たような、さわやかな読後感を得た。ただ、主題は、ずっしりと重い。

井上光晴氏が評する「理不尽な残酷さ」――昭和十年、二十四歳の若さで獄中にひとり自死した熊沢光子。彼女の生の軌跡――を描いている。「光子は、良妻賢母の育成を理想とする女学校を卒業しながら、貧しく虐げられた人々に同情し、貧富の差を生み出す社会構造を憎み、安穩な生活を捨て自ら困難な運動へと飛びこんでいった。

しかし、その人に尽くすことが、革命や人民に力をかすことになると思じてハウスキーパーになった相手は、特高警察のスパイになり果てていた。彼女は同志から査問を受ける。弾圧のすさまじい嵐の中で、非合法の運動を守りぬくことの困難さ。身の危険をおかして組織を守ろうとした人々の勇氣と崇高さ。それを十分に理解したうえで

なお、私は熊沢光子が担ったようなハウスキーパーの存在、その働かせられたに、強い不満とごだわりを持たずにはいられない。彼女の悲劇は、現代にはまったく縁のないことであろうかすでに克服された課題であろうか」

残念ながら私も作者と同じく否しか言えない。「今なお、人間解放をめざし、抑圧と闘うグループや運動体の中に、理論としては存在するはずもない女性差別が根強く残っていると、実感することがある。そんな時、いいようもない失望を感じる。」そうした失望感、憤りが作者をこの仕事にむかわせたのかも、とあとがきで語っている。「時代にさきがけて一つの信条を持ち、それを実行に移そうとする時、人は多くの困難や世人の無理解に打ちこらしめられる。とりわけ、女が自分の意志を貫こうとする時は」「光子さん。貴女もそんな一人だったのですね」と語りかける。あえて険しい道を選び傷つ

いた彼女に「私は貴女の名を、決して忘れません。女から次の時代の女たちへと伝えてゆきたいと希っています。女であるゆえに傷つくことが無い時代の到来を、心から希って」と本文を結ぶ。

五年の歳月をかけ、足跡を追いつくりあげた光子のモンタージュ。著者は不十分と謙遜されるが、十二分に心を打ち、情眼を破るインパクトを持つ。

ハウスキーパーのカタカナの目に入り、これ以上家事はいいなどと、単純な私は、長らく書棚に積んどくばかりだった。遅ればせながら、へあごらのメンバー、ファン、支えて下さる方々、ぜひ一読を。そして大切なお友だちへのプレゼントとPRも宜しく。事務局移転と二十周年記念行事の資金造りへの協力もかね、バックナバー・BOC出版にもご注目！ご声援を!!

(奥川)

## 福岡セクシュアル・ハラスメント裁判

### 判決の報告

(〈あいら〉九州)

四月十六日、日本で初めて「職場での性的嫌がらせ」を正面に掲げて提訴した裁判の判決がでました。判決では原告Aさんの主張がほぼ全面的に認められ、被告については「異性関係など性生活を非難し、噂することにより、原告の働く女性としての評価を低下させたことは人格権の侵害である」と判断しています。さらに会社側についても「女性の譲歩と犠牲において、職場環境を調整しようとしたのは、不法行為である」として、使用者責任も認定した画期的な判決です。

提訴から二年八か月、へ職場での性的嫌がらせと闘う裁判を支援する会のメンバーとして、勝訴は確信していたのですが、この日の判決は予想以上のものでした。判決文では「性的嫌がらせ」という言葉は使われていないけれども、私たちの主張してきた

① 職場での性に関わる言動は、女性にとって働きにくい

職場環境を形成する

② その結果の環境調整において、女性を排除することは許されない

の二点ともに明記されていますので、全面勝訴と言ってよいと思います。

裁判を終え、被告側の控訴断念によって判決が確定しています。原告のAさんの過去六年間におこったこと、八六年から性的嫌がらせを受け、八八年に退職させられ、八九年に提訴を決意し、裁判では私生活のあることないことさらけだされて、ついにこの判決を勝ちとるまでの彼女の生き方を知るにつれ、ほんとうによく闘い、よく生きるひとだと、頭の下がる思いでした。弁護士の上本さんが、いつか言った「私はこの裁判をとおして、傷ついた女性が堂々と胸をはって生きていくことをめざしています」という言葉が、納得できます。

この裁判で、女性だけの十九名の弁護団の粘り強い弁護活動を傍聴できたことも、すばらしい体験でした。この裁判の報道で、弁護団の映像をみるたびに「女性たちは、着実にここまで、歩いてきたのだ」と感動したものです。福岡の女性だけでなく、いまを生きる女性たちの力強い心の

支えと励みになった活躍に、あらためて感謝します。

この裁判の経過については、再々『月刊あこら』でも報告してきましたが、性差別をなくす活動をしてきた人間として「職場での性的嫌がらせは許せない」と支援してきた裁判の意義が、この判決によって一般にひろまったことで、多くの働く女性がこれからは勇気をもって「ノー・セクシユアル・ハラスメント」と言えるようになると思います。そして、性差別のない社会を目ざす運動がここまでひろが

り、深められていたからこそ、この判決を聞くことができただののだという思いが、日がたつにつれて新たに湧いてきます。

全国から支援の言葉やカンパをよせていただき、ほんとうにありがとうございました。これからも、女性の連帯の輪がもっとひろがりますことを祈っています。

(池田保子)

#### 第4回 夢見波 進しん歩 自じ生うむ

### 憲法第14条は二元気ですか

#### ―裁判と報道における性差別―

お話をして下さるお二人

前林則子さん（「土田・日石・ピース缶事件」の犯人としてでっち上げられ、九年後に無罪が確定）・加城千波さん（弁護士、在日外国人労働者問題、医療過誤事件、冤罪事件など様々な人権問題に取り組む）

5月24日（日） 午後1時30分

場所 東京中央労政会館11階A会議室 JR地下鉄飯田橋駅前すぐ

飯田橋セントラルプラザ（ラムラ）ビル

主催 八尾 恵さんを支える会 夢見波（ゆめみは）

## イラクにたしかにミルクを届けました

斎藤 千代

三月から四月にかけて約一か月、イラクを訪ねました。去年湾岸から帰って、「見た者の責任」として湾岸戦争の実情を報告して歩きましたが、行く先々で、「日本が国際貢献の名で戦争に加担したことの責任をとらなくては」と、イラクの子どもたちにミルクと医薬品を贈る運動が展開されました。とりわけ広島の〈デルタ女の会〉の方々は、被爆地ヒロシマだけに受けとめ方が鋭く、あるいは街頭に立ち、あるいは個別訪問をして、約百万円ものカンパを集めて下さいました。各地各個人それぞれの、血のにじむような苦勞を知っているだけに、ミルク一滴たりとも横流しせず、救援物資を本来に必要な人に届けたいとの思いで、現物に付添って現地に赴いたのが今回の動機です。皆様のお心づくしの救援物資は、北部から南部までの十一の病院に間違いなく届けました。

イラクの食糧難、ことにミルクと医薬品の欠乏は深刻で、至るところでミルク一缶だけでも分けてもらえないかと懇願されましたが、「日本の決して裕福でない人びとが、一

番窮乏している赤ちゃんにと真心こめて集めた品です」と言う、みんな納得してくれました。「イラクに救援物資を贈ってもフセイン政権を肥らせるだけ」という声をよく耳にしますが、救援物資はすべてイラク赤新月社（日本の日赤にあたる）を通じて配布され、まかり間違っても軍隊の手には渡らないことを確認しました。カンパを寄せて下さったたくさんの方々にご報告し、心からのお礼を申し上げます。

もちろん、届けた品は砂漠の一滴の水のようなもの。必要量にはとても足りません。しかし経済制裁の締めつけがますます厳しいなか、何とか生活を立て直そうと必死な人びとに、「心をいやされた」と、それはそれは感謝されました。ありがとうございます。

ただ、多くの人が言いました。「イラクはどこかに援助される国にはなりたくない。経済制裁さえ解除されれば自力で更生する」と。たしかに救援物資など、アメのナミダにもなりません。経済制裁の解除こそ緊急課題でしょう。

国連決議の名で、今も毎月一万人が「制裁死」していることに、私は憤りを覚えます。イラクの人口は一七五〇万人ですから、日本の人口で言えば毎月八万人が死んでいる。それも乳児、幼児、老人など弱者から死んで行っています。イスラエルの占領地撤退に関しては百本以上の国連決



★あごら171号の『朝鮮人従軍慰安婦』の書評に、評者が、陸軍に動員された日本人の女子学生の身体検査の体験が書かれていましたが、何度読んでみても合点がいきません。戦争中、男も女も、皇軍の名の元に性を蹂躪されたことは確かなことですが、『従軍』慰安婦問題を考える時、間違っではないけない視点があるように思うのです。日本の女、朝鮮人（従軍）慰安婦とを分断して考えるのではないのですが、朝鮮人（従軍）慰安婦も、日本の女も、男の兵士もモノ扱いされた、と同等扱いするのは、この問題をきちんと判断する障害になるのではないのでしょうか。

（埼玉 加納政子）

●身体検査は、当時の女学校では体操服で行われるのが普通でした。陸軍に動員され、若い下士官の前でパンツ一枚にされかけた時の恥ずかしさと恐怖は今でも忘れられません。

在日韓国民民主女性会刊の本を読んだとき、身体検査でさえショックなのに、「慰安婦」として扱われた人々の衝撃は言語に絶するものだったろうと痛感しました。

あの頃、軍の名のもとに、「人間」はたちまち「物体」にされたのです。

一銭五厘で軍隊に強制徴兵された男性と従軍慰安婦を比

較してはならないと主張する人もいますが、私は、日本の国内に人権無視があったからこそ、日本は他国、他人種の人権を平気でふみにじったのだと思います。『日本の女』に対する凌辱は、『アジアの女』に対する凌辱の第一歩です。『日本の女』が自らの人権を守り抜くことこそ、『アジアの女』の人権を守ることにつながります。

たとえばいま、PKOが国民的論議も経ずに強行推進されようとしています。かつての軍隊をかいま見た者たちは、まさに軍隊復活の布石にほかならない、これこそ『慰安婦』とつながる兇行と、心から憤り、深く憂慮しています。アジア二千万万人の犠牲を出した、あの戦争の唯一の収獲は、日本に徴兵制がなくなり、軍隊を持たなくなることではないでしょうか。自国・他国を問わず人権のすべてを奪った軍隊を二度と再び持たないことこそ、アジアの人の人権を守ることであり、アジアに対する最大の謝罪だと私は思います。

『慰安婦』は、決して『朝鮮人』の問題ではなく、私たち自身の問題です。一つ一つの一見小さな『日本人の話』こそ、『慰安婦』の原点ではないでしょうか。

（斎藤千代）



#### ◆PKO 平和維持活動への提言

青葉を渡る風、越し方をふり返ってみれば、十六歳で敗戦体験、二十二歳で結婚、二十四歳で女の子、二十八歳で男の子を産み、四十年以上、サラリーマンの専業主婦として過ごしてきた一人の女が移り変わることを真実の現在進行形世界の中で、次から次へと起こる悲惨なニュースの日々の中で（明るい話題もありますが…）「平和」とは、自己と他者との間の良くも悪くもなる人間関係を、良好な状態で維持する努力が結論ではないかと思うようになりました。

人の心の中に築く平和の砦でしょうか？

人間、この人と人との間は、間が悪くなったり、間が持たなかったり、間が抜けてたり、間一髪で間に合ったり、忙しいですネ。

国連が世界人類の問題を解決するための主権国家の寄り合いの場で、日本も国際貢献で、意見を提言できるのなら、こんなことを考えます。「九条の会」のオーバードーン先生は、『朝日ジャーナル』で、アメリカの憲法を変えるのに三百年くらいかかるとかおっしゃられました。が、未来に誰しもが願う「恐怖よりの自由」のため「自国民を愛する故、他国民を害さない」加害者にも被害者にもならない「知恵の誓い会い」をすれば、九条の面目もたち、不用の軍備の税金を、地球家家族の環境問題や、福祉や、次世代の教育：

等、いくらでも一石五鳥くらいに善用でき、人間、この人と人との間に今生の縁で出会った信頼感情が芽生えればと、民族、人種とて自己の選択で生まれてきたわけでない、動植物を食べ、呼吸をして、存在根源の生命を持続している自然生態系連鎖循環の中の一生物の人類です。縁によって揺れ動く一時の情動の下僕と化す行動の犯罪も減少する方向に歩んでほしいです。人間、裸で生まれた肉体はいくら人権があっても、細胞の生命活動が停止すれば、富も名誉も地上に残して、裸で死を受容しなければならぬわけです。

国家のリーダーたちは、権力闘争に勝ち、支配欲で、自国民を束縛する型の人たちが多いように思います。自国の防衛等と言って、常に人殺しの訓練をしてれば、些細なことでも、本番をやってみたくなるのも心情ですし、他者を意識することは現実ですが、闘争本能にルールを決めて技を競う、競技（これは自己の能力の限界に挑戦することですが…）を楽しむばよいと思うのです。

どこの国の母親たちでも、人の子を社会人にする迄には、二十年くらいの心労がありますのに、権力者の判断の誤りで、殺し合いを強制される人災の戦争だけはブレーキがほしいです。

（以下略）

（東京都 安東純子）

◆「慰安所」の利用規定、慰安券等の資料を入手しました。肉筆であるだけに、それを書いた人、それらに関わった人がなまなましく想像されて、何とも耐えがたい気持ちになりました。資料を読むのはつらい作業ですが、だからこそ続けなくては、と思います。

台湾軍と陸軍省の電報のやりとりがあったかどうかその頃、私は台湾の女学生でした。学校の掲示板に「女子挺身隊募集」の貼り紙が出され、上級生の一人が応募しました。

(十)

◆裁判の迅速化がいわれながらも、遅々として進まない現実。私も国家賠償裁判をやっているが、進展なし。裁判を支える費用だけ大変な負担。沈さんたちの訴えを聞いて何とかならないものかと思っただ。

(前林)

◆机にへばりついていたの編集作業を久しぶりに離れて、集会にインタビュートと外の世界に出掛けました。高橋さん、林弁護士、重い問題に取り組んでいる方々の熱意、確かな行動力に触れて、「戦後補償…慰安婦…日本人であることがたまらない」気分には陥っていた私も、これではいけないと元気が出ました。

(荒)

◆マスコミを賑わしていた従軍慰安婦問題をこの手でつかんでみたい。私自身の目で見てみたい。判断するのはそれからだ。とにかく元慰安婦の方の証言をじかに聞いてみよう、と三月二日参議院議員会館に出かけてみました。沈さん・黄さんの世界は私の予想を遙に越え、日本軍の犯した罪と女性としての哀しみを伝えてくれました。

これがこの本の出発点となったのです。

・ヒロヒト天皇の命令だ！と連行されました。と沈さんが繰り返して語ったこの言葉が私に真実を教えてくれました。ヒトラーとヒロヒトがイコールであること、私が、加害国日本の女であること、そして沈さんも黄さんも私も同じ女であることを、わたしはこの日肌で教わったのです。

娘の通っている公立中学で毎年繰り広げられる「君が代日の丸」反対の抗議メッセージ、身についていない文字で埋めるのは半分辛いものがあつたけど、この本を編集し終えた今、私自身の言葉で今年はいっかり反対の意思を表現できます。加害国の女としての立場も私自身のものになったと声にだせるのです。

(菅原政子)

へあごらは、ギリシャ語でへ人と人との出会うひろばの意味。

女の生き方、人間の解放について話しあうひろば。さくのないへひろばです。

経歴も年齢も性別も関係なく、同じ平場で話しあおう。ちがう価値観にも耳傾けよう。

そして、女も、男も、生き生きと、のびやかに生きられる社会を目指そう、

と、一九七二年以来、資料誌『あごら』(年一回刊)を、また一九七七年からは『月刊あごら』を発行してきました。

特定の、管理された情報は氾濫していますが、私たちのほんとうにはしい情報は手に入りにくい現状のなかで、女の側が必要とする情報を集め、資料に基づいて討論したいと願っています。

あなたの地域の、職場の、そしてあなた自身の情報を、どしどしお寄せください。  
全国各地のへあごら拠点にもお出かけください。

●へあごらは、どの企業、どの政党、どの宗教とも、いっさい無関係。

会費と、有志の基金と、雑誌の売上代で運営しています。

●全国各地の拠点では、それぞれ、その地域に応じた活動をしています。

●現在の主な活動は、

①拠点を軸にした勉強会や社会活動

②『月刊あごら』および『特集あごら』の発行

③女性の創造力や専門的技術を集めた創造力の銀行(BOC)の運営

④読書室の運営

⑤可能性教室(英語教室、再就職準備講座などの運営、その他。

●会費は月額六百元(年額七千二百円)、前納制。入会金は不要。

●申し込みとお問い合わせは、

〒160 東京都新宿区新宿一の九の六 あごら事務局(TEL 03-33354-3941)へ

あごら 174号 1992年 5月10日 発行

●編集 あごら編集会議

●発行所 BOC出版部 〒160東京都新宿区新宿1-9-6 ●03-3354-3941 ●振替東京0-5264

●発行人 <あごら>企画会議 定価980円(952円+税28円)

